

学士課程（総合科学部）

大学の目的（学則 第1条）	学部（学科）の教育研究上の目的（学部規則等から抜粋）
徳島大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の精神に則り、有為な人材を育成し、学術の研究を推進し、社会貢献を果たし、もって人類の福祉と文化の向上に貢献することを目的とする。	本学部は、人文、人間、社会、地域及び情報等の諸科学における専門知識や専門技能及び技術を身につけるとともに、専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し、問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的とし、人類の福祉と文化の向上に貢献することをめざす。

（総合科学部：社会総合科学科）

学士（総合科学）

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1)人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 (2)多文化・異文化理解や専門的知識の体系化を通じて、自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解することができる。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)正しい日本語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 (2)外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 (3)多様な情報を収集・分析して適正に判断し、科学的思考性や論理的思考性のもとに、身につけた専門技能・技術とモラルに則って効果的に活用することができる。 (4)問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理して、現代社会の諸問題や地域課題についての問題解決を図ることができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 (2)社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。</p>	<p>総合科学部社会総合科学科では、専門分野の基礎的・専門的知識やスキルの修得と、広く社会から求められる汎用性の高い総合性の獲得に重きを置くという、二つの支柱からなるカリキュラムを編成している。後者の総合性については、これをテーマとする授業科目をコース横断的な「実践学習科目」に集約し、コース専門科目との連携を深めることで、社会が求める実践的な人材の養成をめざしている。</p> <p>1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修させ、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、自然科学・イノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修させる。</p> <p>2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得させるとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上を目指す。</p> <p>3. 2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につけさせる。また、「総合科学実践プロジェクト」やキャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につけさせる。</p> <p>4. 2年次には、各自の問題関心に応じて「国際教養」、「心身健康」、「公共政策」、「地域創生」のいずれかのコースに所属させ、「コース入門科目」により各コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ばせる。</p> <p>5. 2年次以降、専門分野の「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修させる。「コース基礎科目」は、専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルの修得を目的とし、「コース応用科目」は個々の課題・テーマに関わる講義科目・実習科目・演習科目から構成される。</p> <p>6. 各自の関心に応じて多様な知識の幅を広げさせるため、「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により総合性を身につけさせる。</p> <p>7. 4年次に「卒業研究」に着手させ、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。</p> <p>8. グローバル化教育の一貫として、「総合科学実践プロジェクトJ」（海外体験プロジェクト）を展開する。</p>	<p>人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識や専門技能、技術を身につけるとともに、専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し、問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的としています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 グローバル化、少子高齢化、健康社会づくり、地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心をもち、総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもつ人。21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもつ人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 国語—文化・社会の理解に求められる読解と表現（作文）に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力 英語—グローバル化社会に求められる読解と表現（作文）に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力 地歴・公民—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識 数学、理科—理系分野の基礎的内容を理解し、論理的に考える力</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「知識・教養」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。 一般入試（後期日程） 大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。 推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <活動実績重視型> 書類審査で高等学校等時代での部活動、校外活動、芸術及びスポーツ等のいずれかの分野ですぐれた実績を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、面接では前述の実績を基にしたリーダー的存在となりうる資質を「関心・意欲・態度」「表現力」の面から評価し、以上を総合して選抜します。 推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <英語能力重視型> 書類審査で英語のすぐれた能力、異文化理解能力を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、英語及び日本語での面接では英語のスピーチや会話によって英語の運用能力に関わる「関心・意欲・態度」「表現力」を評価し、以上を総合して選抜します。 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す：5(6)教科型）<主体性・表現力重視型> 大学入試センター試験5(6)教科型（国語、地</p>

		<p>歴・公民、数学、理科、外国語)の採点方式で、広範囲にわたり習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価します。書類審査では高等学校等時代での教科、部活動、校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を、面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課す:3教科型) <主体性・表現力重視型></p> <p>大学入試センター試験3教科型(国語、外国語、地歴・公民、数学)の採点方式で、いずれかの科目での高く習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価し、書類審査では高等学校等時代での教科、部活動、校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を評価します。面接では、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>帰国子女特別入試</p> <p>小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」ならびに日本語の能力を評価、また、英語能力試験の成績で英語の能力を評価します。面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>社会人特別入試</p> <p>小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を、評価します。面接では出願書類及び英語能力試験の成績を参考にしながら入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>私費外国人留学生入試</p> <p>英語能力試験、独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって、英語及び日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を評価します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>渡日前入学許可制度による私費外国人留学生入試</p> <p>独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって、日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。出身国で実施されている大学入学全国統一試験の成績で「知識・教養」、推薦書にて「関心・意欲・態度」を判定します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p>
--	--	--

(総合科学部：社会総合科学科 国際教養コース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー (抜粋)
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 特に人文・社会等の諸科学における専門知識を体系的に理解するとともに、多文化・異文化理解を通して、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)正しい日本語の運用能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 (2)国際共通語としての外国語の高度な運用能力を有し、それに基づいたコミュニケーションや情報発信ができる。 (3)海外などでの社会体験に基づいて、多様な価値観を理解できる。 (4)問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理して、現代社会の諸問題や地域課題についての問題解決を図ることができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)豊かな人間性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 (2)国際社会の一員としての意識の下に、グローバル化が進む現代社会の諸問題に対処できる。</p>	<p>国際教養コースでは、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>国際教養コースは、異文化および自文化を理解し多面的な思考力を可能にする「教養」、広く世界に情報発信ができ、グローバル化がもたらす地域社会の諸課題に主体的に取り組むための「コミュニケーション能力」、そして、海外留学・海外研修などの社会体験、さらにはキャンパス内外での留学生との交流を通して「異文化対応力」を育成することを目標としている。</p> <p>このような教育目標を実現するために、本コースは多様な海外留学プログラム、外国語演習科目、英語による講義科目、日本を含む世界の国や地域の特徴について学ぶ科目、そして国際理解と自文化理解のための授業科目などを段階的に配置している。具体的には、以下のとおりである。</p> <p>1. 1年次には、教養教育科目と学部共通科目、実践学習科目の授業を履修させ、基本的な調査・発表能力を養いつつ、さまざまな分野についての基礎的な知識と技能を身につけさせる。</p> <p>2. こうした基礎的な学力にもとづいて、2年次からは、実践力を養っていく。とりわけ、実践的な外国語教育・体験プログラム(ACEプログラムなど)で語学力とコミュニケーション能力を涵養する。教養教育科目、学部共通科目、実践学習科目に加</p>	<p>人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識や専門技能、技術を身につけるとともに、専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し、問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的としています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 グローバル化、少子高齢化、健康社会づくり、地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心をもち、総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもつ人。21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもつ人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性</p>

<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題を分析する能力と技能、情報発信能力を有し、地域社会や国際社会の文化や生活環境の創造に貢献できる。</p>	<p>えて、コース入門科目とコース基礎科目、一部のコース応用科目を受講させる。実践学習科目、コース入門科目、コース基礎科目、コース応用科目については、仮選択した5つの「履修パターン」に提示された科目を中心に履修させる。</p> <p>3. 3・4年次には応用力を身に付けさせていく。コース基礎科目、コース応用科目を中心に履修させ、かつ、コース自由選択科目や他コース選択科目については、視野を広げて自分の専門領域外も俯瞰できるように履修させる。さらに短期・長期の留学や国際交流体験を通じて異文化対応能力を培わせつつ、自文化理解と国際理解を深めるために、個々の関心や資質に応じて日本・アジアや欧米、その他の地域の言語や文学、文化、思想、歴史、経済、政治、社会について学ばせる。またそれらの地域を相互に比較して学ばせることもできるようにする。そして、ゼミナールを中心に自ら設定した問題を掘り下げさせ、議論を積み上げながら卒業研究にまとめさせる。</p>	<p>問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容</p> <p>国語—文化・社会の理解に求められる読解と表現(作文)に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力</p> <p>英語—グローバル化社会に求められる読解と表現(作文)に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力</p> <p>地歴・公民—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識</p> <p>数学、理科—理系分野の基礎的内容を理解し、論理的に考える力</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>一般入試(前期日程) 大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「知識・教養」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。</p> <p>一般入試(後期日程) 大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ(大学入試センター試験を課さない) <活動実績重視型> 書類審査で高等学校等時代での部活動、校外活動、芸術及びスポーツ等のいずれかの分野ですぐれた実績を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、面接では前述の実績を基にしたリーダー的存在となりうる資質を「関心・意欲・態度」「表現力」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ(大学入試センター試験を課さない) <英語能力重視型> 書類審査で英語のすぐれた能力、異文化理解能力を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、英語及び日本語での面接では英語のスピーチや会話によって英語の運用能力に関わる「関心・意欲・態度」「表現力」を評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課す:5(6)教科型) <主体性・表現力重視型> 大学入試センター試験5(6)教科型(国語、地歴・公民、数学、理科、外国語)の採点方式で、広範囲にわたり習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価します。書類審査では高等学校等時代での教科、部活動、校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を、面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課す:3教科型) <主体性・表現力重視型> 大学入試センター試験3教科型(国語、外国語、地歴・公民、数学)の採点方式で、いずれかの科目での高く習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価し、書類審査では高等学校等時代での教科、部活動、校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を評価します。面接では、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>帰国子女特別入試 小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」ならびに日本語の能力を評価、また、英語能力試験の成績で英語の能力を評価します。面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>社会人特別入試 小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を、評価します。面接では出願書類及び英語能力試験の成績を参考にしながら入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>私費外国人留学生入試 英語能力試験、独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって、英語及び日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現</p>
--	---	--

		<p>力」「思考力・判断力」を評価します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>渡日前入学許可制度による私費外国人留学生入試 独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって、日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。出身国で実施されている大学入学全国統一試験の成績で「知識・教養」、推薦書にて「関心・意欲・態度」を判定します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p>
--	--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>特に人文・社会等の諸科学における専門知識を体系的に理解するとともに、多文化・異文化理解を通して、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育科目では、文学、哲学、歴史学、文化学、外国語学を含む幅広い知識の習得や複眼的視野の養成を目的とした学修を実施する。</p> <p>また、専門科目では、世界に主体的な情報発信ができるコミュニケーション能力や異文化対応力を育成するための学修を実施する。</p> <p>具体的には、コース入門科目やコース基礎科目、及び学部共通科目において、人文科学（文学、哲学、歴史学、文化学、外国語学）の基本的な知識を学修し、あわせて異文化コミュニケーション力を身につけることによって、社会のグローバル化がもたらす諸問題や地域の課題に取り組むための基礎力を身につけさせる（科目例：国際関係論、東アジア文化研究、総合科学の基礎A・B・C（日本語表現の基礎/文化研究の基礎/哲学思想の基礎）。</p> <p>また、英語の運用能力を高めるための「ACEプログラム（Academic communications in English）」では、国際的なコミュニケーション・情報発信力を習得するとともに（科目例：Academic English I・II）、異文化、多様な価値観に対する理解力を高める（科目例：Advanced Academic Communication I・II）。</p> <p>【学修方法】</p> <p>日本を含む世界の国や地域の特徴について学ぶ科目や、国際理解と自文化理解のための授業科目、外国語演習科目及び英語による講義科目などを段階的に配置する。講義による学修を主とするが、アクティブラーニングを活用した授業を展開し、学生の能動的な授業参加を推進する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験・レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>グローバル化、少子高齢化、健康社会づくり、地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心をもち、総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもつ人。21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもつ人</p> <p>表現力</p> <p>自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性</p> <p>問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれないことなく、対等の立場で協力できる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1)正しい日本語の運用能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。</p> <p>(2)国際共通語としての外国語の高度な運用能力を有し、それに基づいたコミュニケーションや情報発信ができる。</p> <p>(3)海外などでの社会体験に基づいて、多様な価値観を理解できる。</p> <p>(4)問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理して、現代社会の諸問題や地域課題についての問題解決を図ることができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>主に教養教育科目や実践学習科目（科目例：SIH 道場、課題発見ゼミナール）において、論理的に思考・議論・文章化できる能力を養うとともに、コミュニケーション・プレゼンテーション能力の基礎を固める。</p> <p>また、教養教育科目・学部共通科目における語学関連科目の履修や実践学習科目により（科目例：Academic English I・II、総合科学実践プロジェクトJ）、基本から応用まで外国語の運用能力を高める。</p> <p>さらに、コース基礎科目やコース応用科目を通して（科目例：カルチュラルスタディーズ、イスラーム世界研究、ヨーロッパ文化研究）、多様な価値観の理解につなげるとともに、現代社会の諸問題、地域課題を解決する能力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義形式、演習形式の授業が実施され、専門的内容を高めていく学修を実施する。海外留学プログラムによる国際交流体験の他、個々の関心や資質に応じて日本・アジアや欧米、その他の地域の言語や文学、文化、思想、歴史、経済、政治、社会について学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>講義形式の授業では、主に試験・レポートによる客観的評価法を用いるとともに、演習形式の授業では、授業における取り組みの姿勢やプレゼンの内容につ</p>	

	いての評価が加わり、到達度を客観的に評価する。	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)豊かな人間性, 高い倫理観を身につけ, 自分で問題を発見し, 解決する態度を身につけている。</p> <p>(2)国際社会の一員としての意識の下に, グローバル化が進む現代社会の諸問題に対処できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース入門・基礎・応用科目を通して (科目例: 総合科学実践講義 A(グローバル文化論), 比較宗教学, 芸術文化論), 豊かな人間性, 高い倫理観を養う学修を進める。また, コース入門・基礎・応用科目のうち, 現代社会の問題を重点的に取り扱う科目を通して (科目例: 総合科学実践講義 F(多文化共生論), 北米地域研究), グローバル化が進む現代社会の諸問題を解決する力を養うための学修を進める。</p> <p>【学修方法】</p> <p>日本を含む世界の国や地域の特徴について学ぶ科目や, 国際理解と自文化理解のための授業科目のほか, 海外留学・海外研修などの社会体験, さらにキャンパス内外での留学生と交流させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験・レポートによる客観的評価法に加え, 演習・実習形式の授業では, 取り組みの姿勢やプレゼンの内容についても評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>総合的な視点と知識を身につけ, グローバル化する現代社会の諸問題を分析する能力と技能, 情報発信能力を有し, 地域社会や国際社会の文化や生活環境の創造に貢献できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース応用科目や卒業研究を通して (科目例: 国際教養演習 I・II, 言語コミュニケーション演習 I・II, 日本語演習 I・II), 1, 2 年次の学修をふまえたより専門的な演習, 実習形式による授業を展開し, 総合的な視点と知識, 地域・国際社会の文化や生活環境の創造に貢献できる能力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>外国語学, 文化学などの各ゼミに配属となった学生に対して演習形式による授業を実施し, 少人数による実践的な指導を展開する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>演習発表の態度, 口頭試問への応答に対して評価する。卒業研究 (論文) は, 論文の内容の審査とともに, 卒論発表会での発表内容, 研究への取り組みの姿勢も合わせて評価する。</p>	

(総合科学部：社会総合科学科 心身健康コース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー (抜粋)
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 心理学, スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し, 人間の心と身体健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。</p> <p>2. 汎用的技能 (1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して, 論理的に理解し表現できる能力, 対人関係におけるコミュニケーション能力, 説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。 (2) 国際共通言語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 (3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し, 予防・改善アプローチを実践できる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1) 健全な倫理観と責任感, 自律した学び, 地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。 (2) 人間の健康や幸福 (well-being) を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 心と身体健康科学の複眼的思考力を基盤として, 自ら考え行動する力を備え, 多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し, 個人の健康生活に留まらず, 職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。</p>	<p>心身健康コースでは, 人間の心と身体健康の働きに着目して, 人間科学の諸領域から QOL (Quality of Life) の向上を追求できる人材の育成を目的とする。この目的のもと, 本コースでは, 複雑化していく社会の健康課題を解決するために, 自ら考え行動する人材の育成を目指し, 以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 1 年次を中心に「教養教育科目」と「学部共通科目」「実践学習科目」を履修させ, 幅広い教養教育や地域を基盤とした総合科学の基礎・実践教育により自主・自律の学びの態度を身につけさせる。</p> <p>2. 2・3 年次では, コース基礎科目の心身の健康に関する基礎講義と実践実習のスパイラル方式の学習サイクルによって, 心理学とスポーツ健康科学の文理融合した基礎学力を身につけさせる。またコース入門や実践実習を履修させ, 支援技法の修得とともに対人コミュニケーション, ファシリテーション, チームマネジメントといった人間関係形成の実践力を育成する。また, コース応用科目では学生の選択を基本としてより専門的な科目を履修させるとともに, 地域連携により実施される学外実践実習を履修したり, 教育・法律・産業・地域・外国語などの他コース専門科目を自由選択科目として履修したりして, 多様な知識と経験の幅を広げ, 他職種者とも協調・協働できる人間力や教養力を身につけさせる。</p> <p>3. 3・4 年次では, コース教員のゼミに配属され, 担当教員の専門領域の研究法指導のもとで, 学生自ら掘り下げた研究課題について計画・実践し, 論文にまとめる研究力を養成する。</p>	<p>人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識や専門技能, 技術を身につけるとともに, 専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し, 問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的としています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 グローバル化, 少子高齢化, 健康社会づくり, 地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心をもち, 総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもち人。21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもち人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために, 高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性 問題解決のために, 国籍や世代, 考え方にとらわれないことなく, 対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 国語—文化・社会の理解に求められる読解と表現 (作文) に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力</p>

	<p>4. 心身健康学の専門性を活かしたキャリアデザインとして、中学・高校の保健体育教員、認定心理士、健康運動指導士などの資格取得を希望する学生に対しては、コース担当教員の履修指導のもと学生自主ゼミを編成し、専門知識の補習、試験対策などの自学・自習の力を身につけさせる。</p>	<p>英語—グローバル化社会に求められる読解と表現(作文)に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力 地歴・公民—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識 数学、理科—理系分野の基礎的内容を理解し、論理的に考える力</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>一般入試(前期日程) 大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「知識・教養」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。</p> <p>一般入試(後期日程) 大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ(大学入試センター試験を課さない) <活動実績重視型> 書類審査で高等学校等時代での部活動、校外活動、芸術及びスポーツ等のいずれかの分野ですぐれた実績を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、面接では前述の実績を基にしたリーダー的存在となりうる資質を「関心・意欲・態度」「表現力」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ(大学入試センター試験を課さない) <英語能力重視型> 書類審査で英語のすぐれた能力、異文化理解能力を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、英語及び日本語での面接では英語のスピーチや会話によって英語の運用能力に関わる「関心・意欲・態度」「表現力」を評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課す:5(6)教科型)<主体性・表現力重視型> 大学入試センター試験5(6)教科型(国語、地歴・公民、数学、理科、外国語)の採点方式で、広範囲にわたり習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価します。書類審査では高等学校等時代での教科、部活動、校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を、面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課す:3教科型)<主体性・表現力重視型> 大学入試センター試験3教科型(国語、外国語、地歴・公民、数学)の採点方式で、いずれかの科目での高く習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価し、書類審査では高等学校等時代での教科、部活動、校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を評価します。面接では、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>帰国子女特別入試 小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」ならびに日本語の能力を評価、また、英語能力試験の成績で英語の能力を評価します。面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>社会人特別入試 小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を、評価します。面接では出願書類及び英語能力試験の成績を参考にしながら入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>私費外国人留学生入試 英語能力試験、独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって、英語及び日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を評価します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>渡日前入学許可制度による私費外国人留学生入試 独立行政法人日本学生支援機構の実施する日</p>
--	---	---

		本留学試験によって、日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。出身国で実施されている大学入学全国統一試験の成績で「知識・教養」、推薦書にて「関心・意欲・態度」を判定します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて、入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し、以上を総合して選抜します。
--	--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体健康や QOL の向上を追求するアプローチを理解している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース入門科目やコース基礎科目、及び学部共通科目の履修により心身の健康に関する基礎を学ぶことで、心理学・スポーツ科学分野における基本的な知識を学修し理解を深めさせる（科目例：健康教育学や総合科学の基礎 D・E(スポーツ科学/心理学の基礎)。また、心身健康分野における研究法や統計に関する手法・知識を同科目群から履修させ（科目例：心身行動研究法(心理学研究法)、心身健康に関して修得した知識を心身健康や QOL の向上に応用するための方法を学ばせる。なお、教養教育科目において心理学・スポーツ科学を含む幅広い知識の修得や複眼的視野を養うことを目的とした学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>心理学やスポーツ健康科学といった、幅広い分野を心身の健康に関する講義と実践実習によって学修させる。講義による学修を主とするが、アクティブラーニングを活用した授業を展開し、学生の能動的な授業参加を推進する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験・レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>グローバル化、少子高齢化、健康社会づくり、地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心を持ち、総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもつ人。21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもつ人</p> <p>表現力</p> <p>自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性</p> <p>問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれないことなく、対等の立場で協力できる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1)複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。</p> <p>(2)国際共通言語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。</p> <p>(3)人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>主に教養教育科目や実践学習科目（科目例：SIH 道場、課題発見ゼミナール）において、論理的に思考・議論・文章化できる能力を養い、コミュニケーション・プレゼンテーション能力の基礎を固める。また、教養教育科目・学部共通科目における語学関連科目の履修により（科目例：Academic English）、外国語の基本運用能力や実践能力を身につけて国際感覚を身につけさせる。さらに、コース基礎科目やコース応用科目を通して（科目例：心理学実験実習・スポーツ科学実験実習）、科学的根拠を吟味・活用できる能力を身につけ、健康課題に対して論理的に思考し対応し得る能力を身につけさせる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義に加え、コースに配属となった学生に対する演習・実験・実習による授業が実施され、徐々に専門的内容を扱う科目を通じた学修を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>主に試験・レポート等による客観的評価法を用いるとともに、実験・実習では授業における取組やプレゼンに対する評価を加える。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。</p> <p>(2)人間の健康や幸福（well-being）を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース入門・基礎・応用科目を通して（科目例：精神医学、臨床心理学(臨床心理学概論)、対象者の尊厳を護るための倫理観を養う学修を進める。また、特にコース応用科目において（科目例：健康行動論、地域スポーツ文化論、健康心理学、教育相談）、自らの感情・態度・志向性・健康を覚知し、臨床心理学およびスポーツ健康科学の実践・支援に必要な基本的態度・技法を獲得することを目指した学修を進め、健康課題の解決能力を専門的に修得することを目指す。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義・演習に加え、心理学・スポーツ科学教室に配属となった学生が主として履修する専門的な実験・実習による授業において、専門的内容を指導する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験・レポート等による客観的評価法に加え、実験・実習では授業における取組やプレゼンに対する評価を加える。</p>	

<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>心と身体健康科学の複眼的思考力を基盤として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース応用科目や卒業研究（科目例：心身健康総合演習（ゼミ））を通して、地域・国際社会における心と身体健康科学に関する諸問題を多角的に分析し、医療や福祉等、多様な側面からその解決法を提示できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>心理学・スポーツ科学教室の各ゼミに配属となった学生に対する、実験・実習・演習による授業が実施され、少人数を対象とした実践的な指導を展開する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>発表の態度、口頭試問への対応を評価する。卒業研究（論文）は、論文の内容の審査に加えて、卒論発表の内容、研究への取り組みを合わせて評価する。</p>	
---	--	--

(総合科学部：社会総合科学科 公共政策コース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>社会科学のうち、法律学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。</p> <p>2. 汎用的技能</p> <p>(1)現代社会が直面する様々な問題に対して、法律学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。</p> <p>(2)英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。</p> <p>(3)企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。</p> <p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。</p> <p>(2)他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>法律学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。</p>	<p>公共政策コースでは、教養教育科目・学部共通科目並びに法律学、政治学、経済学、および経営学の4分野の学修を広く横断的に進め、ゼミ（公共政策総合演習）において専門性を深めるという講義・演習の最終目標として卒業研究を完成する以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 1年次では、教養教育科目を中心として学修を進めるとともに、情報処理や自然科学分野の科目の受講を促し、いわゆる文系分野の科目以外の科目の取得を通じて広い教養を身につけることを目標にする。さらに、学部共通科目や課題発見ゼミナールなどの実践学習科目を通じて、大学生として論理的に学習できる習慣を身につけ、社会の広範囲な問題に対して関心を抱くように指導する。</p> <p>2. 2年次では引き続き、上記関連科目を学修するとともに、コース入門科目において公共政策コース4分野のすべての教員がオムニバスで講義することで、公共政策コースの全体像を学生が把握できるようにして、ゼミ（公共政策総合演習）選択を容易にするように指導する。</p> <p>3. 3年次においては、希望したゼミでの深い知識を得るために学修を継続するとともに、ゼミ担当教員以外の分野の学習も同時並行的に進めながら、卒業研究の方向と内容を決定する。</p> <p>4. 4年次においては、公共政策コースが目指す専門性と総合性の最終目標である卒業研究の完成に向けて指導する。</p>	<p>人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識や専門技能、技術を身につけるとともに、専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し、問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的としています。</p> <p>●求める人物像</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>グローバル化、少子高齢化、健康社会づくり、地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心をもち、総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもち、21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもち、</p> <p>表現力</p> <p>自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性</p> <p>問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容</p> <p>国語—文化・社会の理解に求められる読解と表現（作文）に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力</p> <p>英語—グローバル化社会に求められる読解と表現（作文）に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力</p> <p>地歴・公民—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識</p> <p>数学、理科—理系分野の基礎的内容を理解し、論理的に考える力</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>一般入試（前期日程）</p> <p>大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「知識・教養」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。</p> <p>一般入試（後期日程）</p> <p>大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）</p> <p><活動実績重視型></p> <p>書類審査で高等学校等時代での部活動、校外活動、芸術及びスポーツ等のいずれかの分野ですぐれた実績を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、面接では前述の実績を基にしたリーダー的存在となりうる資質を「関心・意欲・態度」「表現力」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p>

		<p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <英語能力重視型> 書類審査で英語のすぐれた能力，異文化理解能力を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し，英語及び日本語での面接では英語のスピーチや会話によって英語の運用能力に関わる「関心・意欲・態度」「表現力」を評価し，以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す：5(6)教科型）<主体性・表現力重視型> 大学入試センター試験5(6)教科型（国語，地歴・公民，数学，理科，外国語）の採点方式で，広範囲にわたり習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価します。書類審査では高等学校等時代での教科，部活動，校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を，面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し，以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す：3教科型）<主体性・表現力重視型> 大学入試センター試験3教科型（国語，外国語，地歴・公民，数学）の採点方式で，いずれかの科目での高く習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価し，書類審査では高等学校等時代での教科，部活動，校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を評価します。面接では，入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し，以上を総合して選抜します。</p> <p>帰国子女特別入試 小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」ならびに日本語の能力を評価，また，英語能力試験の成績で英語の能力を評価します。面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し，以上を総合して選抜します。</p> <p>社会人特別入試 小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を，評価します。面接では出願書類及び英語能力試験の成績を参考にしながら入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し，以上を総合して選抜します。</p> <p>私費外国人留学生入試 英語能力試験，独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって，英語及び日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を評価します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて，入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し，以上を総合して選抜します。</p> <p>渡日前入学許可制度による私費外国人留学生入試 独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって，日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。出身国で実施されている大学入学全国統一試験の成績で「知識・教養」，推薦書にて「関心・意欲・態度」を判定します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて，入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し，以上を総合して選抜します。</p>
--	--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解 社会科学のうち，法律学，政治学，経済学，および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し，グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。</p>	<p>【学修内容】 コース入門科目やコース基礎科目，及び学部共通科目の履修により，社会問題や政策問題に関する基礎を学ぶことで，社会科学4分野（法律学，政治学，経済学，経営学）における基本的な知識を学修し理解を深めさせる（科目例：憲法Ⅰ，マクロ経済学入門，総合科学の基礎F・G(公共政策学の基礎/経済学の基礎)。また，社会問題や政策問題を分野横断的に捉える科目を履修し，問題を多面的に理解する方法を学ばせる（科目例：コース入門講座，公共政策学）。なお，教養教育科目においては，法律学・政治学・経済学・経営学を含む幅広い知識の習得や複眼的視野を養うことを目的とした学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p>	<p>関心・意欲・態度 グローバル化，少子高齢化，健康社会づくり，地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心を持ち，総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもつ人。21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもつ人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために，高等学校等で</p>

	<p>4 分野の基礎を幅広く学修させる。講義による学修を主とするが、アクティブラーニングを活用した授業を展開し、学生の能動的な授業参加を推進する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 主に試験・レポート等による客観的評価法を用いる。</p>	<p>修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。</p> <p>(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。</p> <p>(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。</p>	<p>【学修内容】 主に教養教育科目や実践学習科目（科目例：SIH 道場、課題発見ゼミナール）において、論理的に思考・議論・文章化できる能力を養うとともに、コミュニケーション・プレゼンテーション能力の基礎を固める。また、教養教育科目・学部共通科目における語学関連科目の履修や実践学習科目により（科目例：Academic English I・II、総合科学実践プロジェクトJ）、外国語の運用能力を身につけさせる。さらに、コース基礎科目やコース応用科目を通して（科目例：環境政策論 I、国際協力論、応用経済学）、社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得する学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義形式に加え、コースに配属となった学生に対する演習形式の授業が実施され、徐々に専門的内容を高める学修を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 主に試験・レポートによる客観的評価法を用いるとともに、演習形式の授業では、授業における取組やプレゼンの内容についての評価を加える。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。</p> <p>(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。</p>	<p>【学修内容】 コース入門・基礎・応用科目を通して（科目例：民法 I、平和学、行政法 II）、高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を養う学修を進める。また、とくに演習形式の科目を通じて（科目例：コース入門講座、公共政策総合演習 I、公共政策総合演習 II）、他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけるための学修を進める。</p> <p>【学修方法】 講義形式に加え、ディスカッションを重視する少人数による演習形式の授業が展開され、専門的内容を指導する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験・レポートによる客観的評価法に加え、演習形式の授業では、取組やプレゼンの内容についての評価を加える。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>法律学、政治学、経済学、および経営学の 4 分野の関連科目をできるだけ偏りなく学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。</p>	<p>【学修内容】 コース応用科目や卒業研究を通して（科目例：公共政策総合演習 I、公共政策総合演習 II）、1、2 年次の学修をふまえたより専門的な演習、実習形式による授業が展開され、法律学、政治学、経済学、および経営学の 4 分野を総合する視点と創造的な思考力を養うための学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 環境政治学、マクロ経済学などの各ゼミに配属となった学生に対して演習形式による授業が実施され、少人数による実践的な指導を展開する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 演習発表の態度、口頭試問への応答に対して評価する。卒業研究（論文）は、論文の内容の審査に加え、卒論発表会での発表内容、研究への取り組みの姿勢も合わせて評価する。</p>	

(総合科学部：社会総合科学科 地域創生コース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー (抜粋)
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。</p> <p>2. 汎用的技能 (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 (2) 英語をはじめとする外国語の基本的運用能力を身につけている。 (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その解決を図ることができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。</p>	<p>地域創生コースでは、地域文化や地域社会、情報メディア、芸術表現における専門知識を体系的に修得するために、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修させ、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、自然科学・イノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修させる。</p> <p>2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得させるとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上を目指す。</p> <p>3. 2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につけさせる。また、「総合科学実践プロジェクト」やキャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につけさせる。</p> <p>4. 2年次では、地域文化、地域社会、情報メディア、芸術表現などの分野に関わる基礎知識・技能を学ばせる。</p> <p>5. 3年次以降、地域社会、地域文化、情報メディア、芸術表現いずれかの分野を体系的に履修させる。「コース基礎科目」は、専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルの修得を目的とし、「コース応用科目」は個々の課題・テーマに関わる講義科目・実習科目・演習科目から構成される。</p> <p>6. 各自の関心に応じて多様な知識の幅を広げさせるため、「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により総合性を身につけさせる。</p> <p>7. 4年次に「卒業研究」に着手させ、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。</p>	<p>人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識や専門技能、技術を身につけるとともに、専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し、問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的としています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 グローバル化、少子高齢化、健康社会づくり、地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心をもち、総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもつ人。21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもつ人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容</p> <p>国語—文化・社会の理解に求められる読解と表現(作文)に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力</p> <p>英語—グローバル化社会に求められる読解と表現(作文)に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力</p> <p>地歴・公民—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識</p> <p>数学、理科—理系分野の基礎的内容を理解し、論理的に考える力</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>一般入試(前期日程) 大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「知識・教養」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。</p> <p>一般入試(後期日程) 大学入試センター試験では「知識・教養」「思考力・判断力」を、個別試験では「表現力」「思考力・判断力」をそれぞれ評価し選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ(大学入試センター試験を課さない)＜活動実績重視型＞ 書類審査で高等学校等時代での部活動、校外活動、芸術及びスポーツ等のいずれかの分野ですぐれた実績を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、面接では前述の実績を基にしたリーダー的存在となりうる資質を「関心・意欲・態度」「表現力」の面から評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ(大学入試センター試験を課さない)＜英語能力重視型＞ 書類審査で英語のすぐれた能力、異文化理解能力を有する者を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「表現力」「思考力・判断力」を評価し、英語及び日本語での面接では英語のスピーチや会話によって英語の運用能力に関わる「関心・意欲・態度」「表現力」を評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課す:5(6)教科型)＜主体性・表現力重視型＞ 大学入試センター試験5(6)教科型(国語、地歴・公民、数学、理科、外国語)の採点方式で、広範囲にわたり習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価します。書類審査では高等学校等時代での教科、部活動、校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を、面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し、以上を総合して選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課す:3教科型)＜主体性・表現力重視型＞</p>

		<p>大学入試センター試験 3教科型 (国語, 外国語, 地歴・公民, 数学) の採点方式で, いずれかの科目での高く習熟した「知識・教養」「思考力・判断力」を評価し, 書類審査では高等学校等時代での教科, 部活動, 校外活動で培った「関心・意欲・態度」「協働性」を評価します。面接では, 入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」「表現力」の面からそれぞれ評価し, 以上を総合して選抜します。</p> <p>帰国子女特別入試 小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」ならびに日本語の能力を評価, また, 英語能力試験の成績で英語の能力を評価します。面接では入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し, 以上を総合して選抜します。</p> <p>社会人特別入試 小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を, 評価します。面接では出願書類及び英語能力試験の成績を参考にしながら入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し, 以上を総合して選抜します。</p> <p>私費外国人留学生入試 英語能力試験, 独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって, 英語及び日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。小論文では本学部で勉学するにあたっての基礎的な能力として「知識・教養」「表現力」「思考力・判断力」を評価します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて, 入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し, 以上を総合して選抜します。</p> <p>渡日前入学許可制度による私費外国人留学生入試 独立行政法人日本学生支援機構の実施する日本留学試験によって, 日本語のすぐれた能力ならびに「知識・教養」を評価します。出身国で実施されている大学入学全国統一試験の成績で「知識・教養」, 推薦書にて「関心・意欲・態度」を判定します。面接では日本語の能力と「表現力」「思考力・判断力」に加えて, 入学後に期待される学究的指向性を「関心・意欲・態度」の面から評価し, 以上を総合して選抜します。</p>
--	--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解 地域社会や地域文化, 情報メディア, 芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに, 専門分野の融合を図ることで, グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。</p>	<p>【学修内容】 コース入門科目やコース基礎科目, 及び学部共通科目の履修により地域づくりや情報表現に関する基礎を学ぶことで, 地域・情報表現分野における基本的な知識を学修し理解を深めさせる (科目例: 総合科学実践講義や総合科学の基礎H(社会学の基礎))。また, 通年での履修を前提とする地域調査法・地域調査演習や考古学調査法・演習を通して, 地域調査に関する基礎的な手法と実際の分析方法を学ばせる。なお, 教養教育科目において芸術, 情報学, 歴史学, 地理学, 文化人類学, 社会学, 地域計画学を含む幅広い知識の修得や複眼的視野を養うことを目的とした学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義による学修を主とするが, 地域調査法・演習や考古学調査法・演習のように, 授業時間外でのフィールドワークを活用した授業を展開する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験・レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 グローバル化, 少子高齢化, 健康社会づくり, 地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心を持ち, 総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもつ人。21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもつ人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために, 高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性 問題解決のために, 国籍や世代, 考え方にとらわれないことなく, 対等の立場で協力できる人</p>
<p>2. 汎用的技能 (1)論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力, 他者とコミュニケーションする能力, プレゼンテーション能力を身につけている。 (2)英語をはじめとする外国語の基本的運用能力を身につけている。 (3)地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して, その解決を図ることができる。</p>	<p>【学修内容】 主に教養教育科目や実践学習科目 (科目例: SIH 道場, 課題発見ゼミナール) において, 論理的に思考・議論・文章化できる能力を養い, コミュニケーション・プレゼンテーション能力の基礎を固める。また, 教養教育科目・学部共通科目における語学関連科目の履修により (科目例: Academic English), 外国語の基本運用能力や実践能力を身につけて国際感覚を身につけさせる。さらに, コース基礎科目やコース応用科目を通して (科目例: 地域調査法・演習, 総合情報研究), 科学的根拠を吟味・活用できる能力を身につけ, 地域の課題に対して論理的に思考し対応し得る能力を身につける学修を実施する。</p>	

	<p>【学修方法】 講義に加え、コースに配属となった学生に対する演習による授業が実施され、徐々に専門的内容を扱う科目を通じた学修を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 主に試験・レポート等による客観的評価法を用いるとともに、演習では授業における取組やプレゼンに対する評価を加える。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)豊かな人間性や協調性, 高い倫理観を身につけ, 自分で問題を発見し, 解決する態度を身につけている。</p> <p>(2)社会の一員としての意識の下に, 社会問題や地域課題への取組を通じて, 社会の発展のために積極的に関与できる。</p>	<p>【学修内容】 コース入門・基礎・応用科目を通して(科目例: 地域調査法・演習, 総合科学の基礎 I), 対象者の尊厳を護るための倫理観を養う学修を進める。また, 特にコース応用科目において(科目例: 芸術創生基礎演習, 日本史基礎研究 I,II), 自らの関心にもとづく研究を進める手法を身につけ, 地域課題の分析に必要な基本的態度・技法を獲得することを目指した学修を進め, 地域課題の解決能力を専門的に修得することを目標とする。</p> <p>【学修方法】 講義・ゼミ形式の演習に加え, 地域社会・地域文化学修モデルを履修する学生が主として履修する調査法・演習に関する授業が実施され, 専門的内容を指導する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験・レポート等による客観的評価法に加え, 演習では授業における取組やプレゼンに対する評価を加える。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>総合的な視点と知識を身につけ, グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能, 情報発信能力, マネジメント・コーディネート能力を有し, 地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。</p>	<p>【学修内容】 コース応用科目や卒業研究(科目例: 地域総合演習(ゼミ))を通して, 地域・国際社会における諸問題を多角的に分析し, 社会, 文化, 情報表現等, 多様な側面からその解決法を提示できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 各ゼミに配属となった学生に対して演習による授業が実施され, 少人数に対して実践的な指導を展開する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 発表の態度, 口頭試問への対応を評価する。卒業研究(論文)は, 論文の内容の審査に加えて, 卒論発表の内容, 研究への取り組みも合わせて評価する。</p>	

学士課程（医学部）

大学の目的（学則 第1条）
徳島大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の精神に則り、有為な人材を育成し、学術の研究を推進し、社会貢献を果たし、もって人類の福祉と文化の向上に貢献することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的（学部規則等から抜粋）
本学部は、医療・栄養・福祉に係る教育・研究・診療を通じて社会に貢献できる人材育成を目的とする。

学士課程（医学部）

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 医療・医学に関する基礎・専門分野の幅広い知識、高い教養、ならびに国際性を身につけている。</p> <p>2. 汎用的技能 ・医療や生命科学の基本的研究能力を修得している。 ・専門職としての基本的臨床技能を修得している。 ・他職種と連携しながら、医療チームの一員としての役割を果たすことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 専門職業人としての強い責任感、倫理観、ならびに生涯学び続ける意志を持つことができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 基礎から臨床までの幅広い知識・技能を基盤とし、医療や社会のニーズや医療の最新情報に対応して自らの能力・専門性をさらに高めながら、医療を実践することができる。</p>	<p>高い責任感、倫理観、ならびに生涯学び続ける意志を持ち、国際性と研究能力を兼ね備えながら、基礎から臨床までの幅広い知識・技能を基盤として医療を実践できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 教養教育では、人間・文化・社会・自然に係る広範で多様な基礎的知識と幅広い教養を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 専門教育では、基礎から臨床までの幅広い専門知識と技能を修得させるとともに、問題解決能力、コミュニケーション能力、倫理観、プロフェッショナルリズムなどを含めた汎用的能力や態度・志向性を高めるための教育を行う。</p> <p>3. 卒業研究や研究室配属によって、研究への関心を持ち、研究倫理に基づいて研究を遂行できる能力を修得させる。</p> <p>4. 臨地・臨床現場での教育によって学習意欲を向上させながら、医療人として必要な基本的な知識、技能、態度の育成をはかる。</p> <p>5. 職種間連携教育を通してチーム医療遂行に必要な能力の育成をはかる。</p>	<p>高い責任感、倫理観、ならびに生涯学び続ける意志をもち、国際性と研究能力を兼ね備えながら、基礎から臨床までの幅広い知識・技能を基盤として医療を実践できる医療人へ成長できる人を求めています。</p>

学士課程（医学部：医学科）

【学士（医学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 基礎医学、社会医学及び臨床医学の幅広い専門的知識と高い教養を身につけている。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)生命科学の基本的研究手法、診断及び治療の基本的臨床技能を理解し修得している。 (2)患者・家族や医療チームメンバーと良好なコミュニケーションをとり、医療チームの中でその役割を果たすことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 専門職業人としての高い倫理観と強い責任感を基盤として、国際的視点から向上心と探求心・研究心を持ち、高度先進医療にも地域医療にも対応することができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 幅広い学習経験を背景に、常に医療の最新情報を収集し、それを実践できる能力を有している。</p>	<p>医学科では、基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、保健・福祉活動を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与することができる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 教養教育では、語学、自然科学や社会科学の幅広い教養及び持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 専門医学教育では、医師、医学研究者を目指す上で必要な生命科学、医学英語、基礎医学、社会医学及び臨床医学の基盤知識の教育を行う。臓器疾患別教育ではPBL チュートリアル教育による自己決定型学習方法を用いて、自己開発・自己評価の習慣と科学的根拠に基づいた問題解決能力の修得をはかる。</p> <p>3. 医学研究への関心を持たせ、研究倫理に基づいた研究能力を養うために、基礎医学・臨床医学分野及び学内各研究センターでの自主的な医学研究実習を行わせる。また、希望する学生には外国での研究経験を積ませる機会を提供する。さらに希望する学生はMD-PhD コースに進学することもできる。</p> <p>4. 低学年での早期臨床体験から高学年でのクリニカルクラークシップにいたるまで、各学年の学修段階に応じた診療現場での教育を行うことで、学習意欲を向上させながら、医学知識、思考能力、診療技能、コミュニケーション能力、倫理観、医療プロフェッショナルリズムなどを含めた、医師として必要な基本的な知識、技能、態度の育成をはかる。また、学外医療機関での実習により、地域社会と医療との関わりについても学習させる。</p> <p>5. 医療系の他学科、他学部学生との職種間連携教育を通して、他職種に対する理解を深め、チーム医療遂行に必要な能力の育成をはかる</p>	<p>医学科では、基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、保健・福祉活動を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与することができる人材を養成することをめざしています。そのため、医学科では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 医学と生命科学に強い関心があり、自らを振り返りながら生涯学び続ける意欲があり、謙虚な態度で病める人に寄り添い、医学や医療の課題に真摯かつ熱心に対応できる人 知識・教養 本学科の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識や教養をもつ人 思考力・判断力 これまでに獲得した知識や教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人 主体性 自分の意志と判断で社会や地域に対して責任をもって行動できる人 協働性 問題解決のために、国籍や日本における各地域、世代、考え方にとらわれることなく、相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—基礎的知識・技法と数学的思考法 理 科—物理・化学・生物の基礎的な知識と科学的な自然観・探究心 国語・英語—地域社会や国際的分野において医療人として活躍できるための基礎的なコミュニケーション能力、読解力、思考力 地歴・公民—将来、医療人として活躍するために必要な常識的な知識や素養</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験と個別試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し、個別試験では「関心・意欲・態度」「表現力」をあわせて評価します。学力とともに、生涯にわたり社会に貢献し、医学の発展に寄与する医療人へ成長できる人を総合的に選抜します。</p> <p>AO入試（大学入試センター試験を課す） ＜四国定着研究医型＞ 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験ではこれらに加え、「関心・意欲・態度」「表現力」「主体性」「協働性」を評価します。四国定着研究医型は、四国地区の環境や生活に関心をもちつつ、地域に貢献し、国際性と研究能力を兼ね備えた医師をめざす者を積極的に受入れることとしています。本学科における入学者の多様性は極めて重要です。本学科の資源を最大限に活用し、他の選抜区分で入学する学生の模範となる人物を求めます。よって、医療を通じて四国地区、そして世界に貢献するグローバルな視点をもって活躍するリーダー性、そして医学科で学ぶために必要不可欠な資質を深く評価することを目的としています。</p> <p>推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す） ＜適性と学力重視型（一般枠・地域枠）＞ 大学入試センター試験では「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験では2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し、「思考力・判断力」「主体性」「協働性」をあわせて評価します。 学力とともに、高等学校等段階における多様な能力、関心等を重視し、それらを表現できる人を総合的に選抜します（一般枠、地域枠共通）。地域枠は、「主体性」の評価を綿密に行います。</p> <p>私費外国人留学生入試 個別学力検査で「知識・教養」「思考力・判断力」とあわせて「関心・意欲・態度」「表現力」「主体性」を評価します。日本で学ぶ意欲が高く、医学や生命科学に強い関心を持つ人材を総合的に選抜しま</p>

		す。
--	--	----

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 医師として相応しい倫理観、価値観を持ち、法令を遵守して行動できる。自己省察を重ねて能力・態度を継続的に改善することができる。</p> <p>(1) 医の倫理と生命倫理を理解した上で、それに基づき考え行動できる。</p> <p>(2) 守秘義務をはじめ、法・規範を遵守できる。</p> <p>(3) 人間の多様性に配慮し、尊厳を重んじて、誠意ある行動をとることができる。</p> <p>(4) 医師としてふさわしい身なりと振る舞いをすることができる。</p> <p>(5) 自己の知識・技能・態度を恒常的に評価し、継続的に改善することができる。</p> <p>(6) 同僚や関係者間で互いに教えあい学びあうと共に、後進の育成に努めることができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>1年次の早期臨床体験により学修の動機付けと診療現場での基本的ルールの理解をはかり、医と法・倫理で医療倫理、生命倫理の基礎的知識の学修を実施する。2年次の解剖学実習では生命の尊厳、3年次の法医学では人の生と死等についての学修を実施する。3～4年次の系統別病態診断ではPBLチュートリアルで症例シナリオを用いて医療倫理、生命倫理の学修を実施する。4年次の臨床実習入門でのシミュレーション教育や見学型臨床実習、4～6年次の診療参加型臨床実習では、医師として相応しい倫理観、価値観を身につけ、行動する力を養う学修を実施する。これらと並行して、SIH道場ならびにPBLチュートリアルにより、アクティブ・ラーニング、協働学習、問題基盤型学習の手法を学ぶ学修を実施し、診療参加型臨床実習では診療現場における学修方法を修得する学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義室での対面授業、解剖学実習、グループワーク、PBLチュートリアル、シミュレーション教育、見学型および診療参加型臨床実習</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>筆記試験、観察評価、OSCE、診療現場評価等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>医学と生命科学に強い関心があり、自らを振り返りながら生涯学び続ける意欲があり、謙虚な態度で病める人に寄り添い、医学や医療の課題に真摯かつ熱心に対応できる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学科の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>これまでに獲得した知識や教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>表現力</p> <p>自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>主体性</p> <p>自分の意志と判断で責任感をもって行動できる人</p> <p>協働性</p> <p>問題解決のために、国籍や日本における各地域、世代、考え方にとらわれることなく、相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力できる人</p>
<p>2. 患者・家族・各種医療従事者の立場を尊重した人間関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。</p> <p>(1) 傾聴・共感・肯定的態度で患者・家族とコミュニケーションができる。</p> <p>(2) 同僚や他の医療職メンバーと信頼関係を築き、チーム医療を実践できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>1年次のSIH道場で協働力やチーム医療の基礎について学修を実施し、医学心理行動学で行動科学の基礎的知識の学修を実施する。3～4年次の系統別病態診断ではPBLチュートリアルで症例シナリオを用いて医療コミュニケーションやチーム医療について学修を実施する。さらに、4年次の臨床実習入門におけるシミュレーション教育や見学型臨床実習、4～6年次の診療参加型臨床実習により、その実践力を修得する学修を実施する。各段階では医療系の他学部・学科学生との専門職連携教育もあわせて行う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義室での対面授業、グループワーク、PBLチュートリアル、ロールプレイ、シミュレーショントレーニング、見学型および診療参加型臨床実習</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>筆記試験、レポート評価、観察評価、OSCE、診療現場評価等により到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>3. 診療や研究の基礎となる基礎医学、臨床医学、社会医学などに関連する以下の領域の知識を習得し、応用することができる。</p> <p>(1) 正常構造・機能</p> <p>(2) 遺伝、発達、成長、加齢、死</p> <p>(3) 心理、行動</p> <p>(4) 疾病の機序と病態</p> <p>(5) 診断、治療</p> <p>(6) 医療安全、感染対策</p> <p>(7) 疫学、予防</p> <p>(8) 保健・医療・介護・福祉制度</p> <p>(9) 医療経済・政策・保険診療</p>	<p>【学修内容】</p> <p>1年次の基礎基盤教育科目群、実験動物学・放射線概論では基礎基盤的知識、2年次の基礎医学(1)では解剖学、生理学、生化学、免疫学、寄生虫学、細菌学、ウイルス学の学体系に基づいて人体の正常と機能についての学修を実施する。さらに、3年次の基礎医学(2)では病理学および薬理学、社会医学では公衆衛生学、予防医学、法医学、人類遺伝学の学修を実施する。これらを基盤として3～4年次の系統別病態診断で臓器疾患別に臨床医学についての学修を実施し、4年次の臨床実習入門で臨床実習準備教育を行った上で、4～6年次の診療参加型臨床実習で医学知識の応用についての学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義室での対面授業、実験実習、グループワーク、PBLチュートリアル、ロールプレイ、シミュレーショントレーニング、見学型および診療参加型臨床実習</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>筆記試験、レポート評価、口頭試問、CBT等により到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>4. 患者に対して思いやりと敬意を示し、効果的で適切・安全な診療を実践できる。</p> <p>(1) 診療に必要な患者情報を系統的かつ適切に聴取できる。</p> <p>(2) 基本的な身体診察・臨床手技や心肺蘇生等の緊急処置を適切に実施できる。</p> <p>(3) 主要な検査所見、画像所見の解釈ができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>1年次の早期臨床体験により医師の役割と業務についての理解をはかる。3年次の社会医学では疫学、EBM等の学修を実施する。3～4年次の系統別病態診断では症例シナリオを用いた問題基盤型学修により臨床推論、診断、治療、社会疫学、行動科学についての学修を実施する。4年次の臨床実習入門ではシミ</p>	

<p>(4) 得られた情報をもとに臨床推論を行い、診断・治療計画を立案できる。</p> <p>(5) 論文や電子リソース等を用いて関連情報を検索し、科学的根拠に基づく医療を実践できる。</p> <p>(6) 適切な診療記録の作成・管理とプレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>(7) インフォームドコンセントを理解し、病状説明・患者教育を実践する準備ができています。</p> <p>(8) 医療安全と感染対策を実践できる。</p> <p>(9) 医療の質について、常に振り返り、その改善を図る準備ができています。</p>	<p>ュレーション教育や見学型臨床実習により基本的診療技能についての学修を実施し、さらに、4～6年次の学内外の医療機関での診療参加型臨床実習により、学習意欲を向上させながら、医師として必要な実践力を修得できる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義室での対面授業、演習、グループワーク、PBL チュートリアル、ロールプレイ、シミュレーショントレーニング、見学型および診療参加型臨床実習</p> <p>【学修成果の評価方法】 筆記試験、観察評価、OSCE、診療現場評価、ポートフォリオ評価等により到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>5. 業務を通じて社会に貢献する準備ができています。</p> <p>(1) 社会・地域における医療の問題を理解し、保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力して、その解決に積極的に参加するとともに、情報を発信することができる。</p> <p>(2) 疾病予防と健康増進について理解・実践できる。</p> <p>(3) 災害時における医師の役割を理解し、実践する準備ができています。</p> <p>(4) 保険診療制度の意義を理解し、医療の経済性に配慮しながら診療を行う準備ができています。</p>	<p>【学修内容】 1年次の一般教養教育科目群では、持続可能な社会づくりの担い手となるための基本的資質の修得をはかる。また、早期臨床体験や医と法・倫理により医師の役割・業務と社会との関係について理解をはかる。3年次の社会学では、医療・医学と社会との関連についての学修を実施し、3～4年次の系統別病態診断ではPBL チュートリアルで症例シナリオを用いて社会・疫学的問題点についての学修を実施する。さらに4年次の臨床実習入門での見学型臨床実習や4～6年次の学内外の医療機関での診療参加型臨床実習により、社会医学の実践や医師の社会貢献についての学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義室での対面授業、演習、グループワーク、PBL チュートリアル、見学型および診療参加型臨床実習</p> <p>【学修成果の評価方法】 筆記試験、レポート評価、観察評価、OSCE、診療現場評価、ポートフォリオ評価等により到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>6. 基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義や先端的研究手法を理解した上で実践できる。さらに、得られた結果を科学的に考察し、発信することで医学の発展に寄与することができる。</p> <p>(1) 研究倫理を理解し、実践できる。</p> <p>(2) 未知・未解決の医学的問題を認識し、その解決に取り組むことができる。</p> <p>(3) 仮説の立案と科学的手法を用いた検証を実践できる。</p> <p>(4) 適切な統計手法の選択と解析を実践できる。</p> <p>(5) 批判的・論理的思考に基づいて、プレゼンテーションや論文作成を行うことができる。</p>	<p>【学修内容】 1年次の基礎数学では統計学の基礎、情報科学入門では情報管理やセキュリティ、基本的な統計解析手法についての学修を実施する。さらに、3年次の社会医学では医学・医療に関する統計手法やEBMについての学修を実施する。また、2～3年次の医学研究実習では、各研究室に配属され、自ら研究に携わり、その成果を発表することを通して、研究の進め方、研究手法、ならびに研究倫理について実践的な学修を実施する。希望する学生は4年次修了時点で大学院に進学し、学位取得後に5～6年次を履修することもできる(MD・PhD コース)。</p> <p>【学修方法】 講義室での対面授業、演習、研究室配属</p> <p>【学修成果の評価方法】 筆記試験、面談・ラボノート評価、観察評価、ポスター発表評価等により到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>7. 国際的視野に立って医学・医療の現状を理解できる。適切な語学力を修得し、国際的な医療を実践する準備ができています。</p> <p>(1) 臨床・研究・社会等の場面で、国際的視野に立ったコミュニケーションを実践できる。</p> <p>(2) 文化的・社会的・宗教的な多様性に配慮して行動ができる。</p> <p>(3) 英語等を用いて、様々な情報の入手・理解・発信ができる。</p>	<p>【学修内容】 1年次の外国語教育科目群では英語等の基礎的語学力を修得する学修を実施する。2～3年次の基礎医学(1)および(2)、社会医学では英語での医学専門用語、医学研究実習では英語論文の読解と作成の学修を実施する。希望者は3～4年次に海外の研究室への留学を選択することもできる。4年次の医学英語では、英語での医療コミュニケーション技能を身につける学修を実施する。4～6年次の診療参加型臨床実習では、英語での症例提示や受け持ち患者の問題解決のために英語論文等を活用する学修を実施し、希望者は6年次に海外での臨床実習を選択することもできる。</p> <p>【学修方法】 講義室での対面授業、演習、ロールプレイ、海外留学(研究室配属、臨床実習)</p> <p>【学修成果の評価方法】 筆記試験、課題評価、演習評価等により到達度を客観的に評価する。</p>	

(医学部：医科栄養学科)

【学士 (栄養学)】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー (抜粋)
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 医療現場や地域社会において、医学を基盤として食を通じた疾患予防及び健康増進に必要な基礎・専門分野の知識を修得している。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)病態の分子基盤を理解し、科学的根拠に基づく適切かつ高度な栄養管理・栄養療法を行うことができる。 (2)食の専門家として、他の職種の人々と円滑な連携を取りながらチーム医療及び地域医療に携わることができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)患者及び地域住民の栄養管理・栄養改善に寄与するために、責任を持った行動をとることができる。 (2)進歩する臨床医学に対応できる医科栄養学の専門職業人として、生涯学び続ける意志を持つことができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 修得した基礎から臨床分野までの専門的知識を基盤とし、医療や社会のニーズに対応した最新の栄養管理及び栄養改善を行う能力を有する。</p>	<p>医科栄養学科では栄養学を基盤として食は生命の基盤であることを社会に情報発信するとともに、現場における栄養管理学を発展させ臨床栄養管理を指導できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 教養教育を通じて、広範で多様な基礎的知識と文化や自然科学等の幅広い教養を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 基礎専門科目において、生化学、生理学、基礎医学、臨床医学などを基盤に、人間栄養の基礎知識を修得させる。</p> <p>3. 専門科目において、管理栄養士養成コアカリキュラムの教育内容を網羅し、医学教育を基盤とした臨床栄養学をより充実させることで、高度な専門的基礎知識を備え、医師や他の医療専門職と協働して、リーダーシップを発揮できる管理栄養士を育成する。</p> <p>4. 実習や演習を問題解決型授業ととらえ、実践能力を開発するとともに社会から求められる知識や知恵を修得させる。</p> <p>5. 卒業研究において、実践的な技術や能力を修得させるとともに、研究の意義や楽しさを理解させ問題を解決する手法を修得させることで、指導者となる管理栄養士及び教育者・研究者をめざす人材を育成する。</p>	<p>『食律生命』の理念のもとに、医学と連携した医科栄養学を通して、高度化する医療と人々の食生活の改善・健康の維持増進に資することができる、次のような人を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 栄養学・医学に強い関心があり、医科栄養学を生涯にわたり学ぶ目標をもつ人</p> <p>知識・教養 本学科の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>探究力 問題解決や知識探究に意欲をもつ人</p> <p>協働性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 英 語－医学・栄養学の専門的な論文を将来読み、理解できるための読解力と表現力、コミュニケーション能力 数 学－数学の基本的な概念や原理・法則の理解、また計算力と論理的な思考法 理 科－自然科学を理解する基礎学力と科学的な自然観・探究心 そ の 他－食生活や医療に対する関心をもち、理論的に科学を思考する能力と姿勢</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試 (前期日程) 大学入試センター試験と個別試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し、個別試験では「表現力」をあわせて評価します。国内のみならず国際的な視野をもつ人物を求めため、英語能力に重点を置き、総合的に選抜します。</p> <p>一般入試 (後期日程) 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し、個別試験では「関心・意欲・態度」「思考力・判断力」「表現力」「探究力」を評価します。より深い知識とともに思考をめぐらせて、自らの関心等を表現できる人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ (大学入試センター試験を課さない) <主体性重視型> 個別試験で「思考力・判断力」「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し、「協働性」「探究力」「知識・教養」をあわせて総合的に評価します。推薦入試Ⅰでは、医科栄養学研究に対して、高い主体性をもって行動できる人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ (大学入試センター試験を課す) <主体性と学力重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し、「協働性」「探究力」「思考力・判断力」をあわせて評価します。学力とともに、高等学校等段階における多様な能力、関心等を重視し、それらを表現できる人を総合的に選抜します。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>医療現場や地域社会において、医学を基盤として食を通じた疾患予防及び健康増進に必要な基礎・専門分野の知識を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育科目において人文科学，社会科学，自然科学に関する幅広い知識を学ぶと同時に，1年次より専門基礎科目を履修させ，人間栄養の基礎・専門知識を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の履修と教員による指導を実施する。アクティブラーニングを取り入れた教育の実施を行なう。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験・レポート・実習への能動的参加状況等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>栄養学・医学に強い関心があり，医科栄養学を生涯にわたり学ぶ目標をもつ人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学科の専門分野を学ぶために，高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>幅広い視野と柔軟な感性を有し，今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>表現力</p> <p>自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>探究力</p> <p>問題解決や知識探究に意欲をもつ人</p> <p>協働性</p> <p>問題解決のために，国籍や世代，考え方にとらわれることなく，相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力できる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1) 病態の分子基盤を理解し，科学的根拠に基づく適切かつ高度な栄養管理・栄養療法を行うことができる。</p> <p>(2) 食の専門家として，他の職種の人々と円滑な連携を取りながらチーム医療及び地域医療に携わることができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>2年次より医学を基盤とした栄養管理・栄養療法に重点を置いた専門科目を履修させ，食に関する高度な専門的知識・技能を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門科目の履修と教員による指導を実施する。臨地実習を通じてチーム医療及び地域医療への関わりを学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験・レポート・実習への能動的参加状況等により到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1) 患者及び地域住民の栄養管理・栄養改善に寄与するために，責任を持った行動をとることができる。</p> <p>(2) 進歩する臨床医学に対応できる医科栄養学の専門職業人として，生涯学び続ける意志を持つことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>管理栄養士としての実践的技術・問題解決能力を身につけ，地域医療におけるリーダーシップを発揮するための高度な専門的知識の学修を実施する。また，実験研究を通じて最新の臨床医学に対応できる専門性を学ばせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び問題解決型の実習・演習科目の履修と教員による指導を行う。臨地実習を通じてチーム医療及び地域医療への関わりを学修させる。3年次後半より分野配属を実施し，実験研究を基盤とした卒業論文の少人数指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験・レポート・実習への能動的参加状況等により到達度を客観的に評価する。卒業研究は指導教員の審査によって評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>修得した基礎から臨床分野までの専門的知識を基盤とし，医療や社会のニーズに対応した最新の栄養管理及び栄養改善を行う能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医科栄養学の専門的知識を基盤とし，医療や社会のニーズに対応した実践能力を身につける学習を実施する。また，実験研究を通じて最新の栄養管理・栄養改善を行なう実践力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び問題解決型の実習・演習科目の履修と教員による指導を行う。3年次後半より分野配属を実施し，実験研究を基盤とした卒業論文の少人数指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験・レポート・実習への能動的参加状況等により到達度を客観的に評価する。卒業研究は指導教員の審査によって評価する。</p>	

(医学部：保健学科)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー (抜粋)
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1) 幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している。 (2) 人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。</p> <p>2. 汎用的技能 患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。</p>	<p>保健学科では、幅広い教養と豊かな人間力を基盤として、保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 「教養教育」を通じて、人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し、社会性及び人間関係の形成を理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力、国際的な広い視野を修得させる。</p> <p>3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し、保健学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。</p> <p>4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。</p> <p>5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて専門性を深化させ、「卒業研究」により自主的・創造的な学究の姿勢と専門分野における主体性・指導性を修得させる。</p>	<p>保健・医療・福祉の分野において、人間尊重の倫理に立脚した高い使命感をもち、高度の専門知識・技術を基に、チーム医療、地域医療及び国際的な医療支援に貢献できる人を求めています。</p>

(医学部：保健学科 看護学専攻)

【学士（看護学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1) 幅広い教養と看護学に関する学問知識を修得している。 (2) 人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。</p> <p>2. 汎用的技能 患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 高度化・専門化する医療を支え、看護学の発展に寄与することができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。</p>	<p>看護学専攻では、幅広い教養と豊かな人間力を基盤として、ヒューマンケアを核とした看護学の専門性と実践力を兼ね備え、将来において看護学のプロフェッショナルとなる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 「教養教育」を通じて、人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を修得させるとともに、超少子高齢化に対応した持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し、社会性及び人間関係の形成を理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力、国際的な広い視野を修得させる。</p> <p>3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。看護学に関する知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し、看護学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。</p> <p>4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。</p> <p>5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて看護学の専門性を深化させ、「卒業研究」により看護学の発展に寄与する自主的・創造的な学究の姿勢と生涯にわたってキャリアを形成する力、専門分野における主体性・指導性を修得させる。</p>	<p>国際化、高度化する医療の発展を支える看護学の知識・技術を修得するために必要な基礎学力を備えるとともに、健康の維持・増進、生活の質を高めるにふさわしい潜在的資質を有する人を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 看護への志向性をもち、人間、生命、健康、医療、環境に強い関心とそれらを学ぶ意欲があり、自己の将来像について明確な目標をもっている人 協働性 お互いの立場や考えを尊重して良好な人間関係を築くことができる人 理解力・表現力 他者の思いや状況を理解し、自分の考えを適切に表現し伝えることができる人 知識・教養 保健・医療・福祉など専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※文科系・理科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人 思考力・判断力 高等学校で身につけた知識・教養をもとに、論理的な思考によって物事を判断し、課題を解決しようとする人 幅広い視野 自分たちが住む地域の保健医療や日常生活に関心を向け、国際的な視野をもちながら多角的に物事をとらえることのできる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 国語—文章を正しく理解する能力と自分の考えを適切に表現するための作文能力 地歴・公民—基礎学力を有し、社会と人の生活を関連づけて考える姿勢と能力 数学—基本的な知識と計算力及び論理的に思考する能力 理科—自然科学を理解する基礎学力と科学的に思考する能力 外国語—基礎的な読解力・作文力・コミュニケーション能力</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験および個別試験で、「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。より深い知識とともに、思考をめぐらせて表現できる人を総合的に選抜します。 一般入試（後期日程） 大学入試センター試験で、「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験では、これらに加えて「関心・意欲・態度」「協働性」「理解力・表現力」「幅広い視野」も評価します。知識のみならず、学ぶ意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す） ＜主体性・表現力重視型＞ 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験では、これらに加えて「関心・意欲・態度」「協働性」「理解力・表現力」「幅広い視野」を評価します。高等学校等段階における看護に対する関心や意欲などを重視し、協働性をもった人を総合的に選抜します。 社会人特別入試 個別試験（学力検査（英語）・小論文）で「基礎学力」「語学力」「理解力・表現力」「思考力・判断力」「幅広い視野」を評価します。これに加えて面接で「関心・意欲・態度」「協働性」「理解力・表現力」を評価します。経験を活かし、健康の維持・増進、生活の質を高めるにふさわしい確かな資質を有する人を総合的に選抜します。 私費外国人留学生入試 日本留学試験で「日本語の語学力」「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、これに加えてTOEFLの成績を利用し「語学力」を評価します。さらに、小論文および面接では「関心・意欲・態度」「理解力・表現力」「幅広い視野」も評価します。学ぶ意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します</p>

編入学入試

個別試験（外国語・専門科目）で「語学力」および看護学に関する「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験（個人面接）で「関心・意欲・態度」「理解力・表現力」を評価します。学ぶ意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。

（注）本専攻では、各選抜で実施する個別学力検査等におけるいずれかの得点が一定水準以下の場合は、合計点のいかんにかかわらず不合格とします。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 幅広い教養と看護学に関する学問知識を修得している。</p> <p>(2) 人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>人間理解のための幅広い教養と専門分野の基盤となる科学的な知識を修得できるよう一般教養教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、国際的な広い視野と国際的・地域的的文化への理解力を涵養できるよう教養教育科目及び学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>人体の構造と機能及び疾病を系統立てて理解できるよう学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>学修設計に応じて主体的に学び、段階的に専門性を深化させることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>看護学に必要な診断・治療学、薬理学、病態生理学等の基礎知識を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>看護への志向性をもち、人間、生命、健康、医療、環境に強い関心とそれらを学ぶ意欲があり、自己の将来像について明確な目標をもっている人</p> <p>協働性</p> <p>お互いの立場や考えを尊重して良好な人間関係を築くことができる人</p> <p>理解力・表現力</p> <p>他者の思いや状況を理解し、自分の考えを適切に表現し伝えることができる人</p> <p>知識・教養</p> <p>保健・医療・福祉など専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※文科系・理科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>高等学校で身につけた知識・教養をもとに、論理的な思考によって物事を判断し、課題を解決しようとする人</p> <p>幅広い視野</p> <p>自分たちが住む地域の保健医療や日常生活に関心を向け、国際的な視野をもちながら多角的に物事をとらえることのできる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力を修得できるよう教養教育科目と学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>地域創生・地域貢献に求められる資質と医療分野の横断的な基盤を獲得できるよう地域科学教育科目群と医療基盤教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>心身の健康に関わる自己管理能力を修得できるよう基礎基盤教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>チーム医療においてリーダーシップを発揮したり、コーディネータの役割を担うことができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	

<p>3. 態度・志向性</p> <p>高度化・専門化する医療を支え、看護学の発展に寄与することができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>保健学の複合的な視点と態度・志向性を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を系統的・段階的に修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>科学的根拠に基づいて対象者に応じた看護過程（アセスメント・看護診断・計画・実施・評価）を展開できる能力を獲得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>看護過程において対象者の尊厳を守る倫理観を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>病院・地域・学校・産業など多様なフィールドで活躍できる能力を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけることができるよう臨地・臨床実習を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>生涯に渡って学び続ける力を身につけ、医学の発展に寄与し、自らの能力・専門性を高めることができるよう専門教育科目に研究を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験、課題学修成果資料、発表、実技試験、課題レポートにより、到達度を客観的に評価する。</p> <p>臨地実習の履修開始前に、基本的臨床技能を客観的臨床能力評価基準に基づいて評価する。</p> <p>卒業研究は、研究過程、発表・諮問、研究論文により客観的に評価する。</p>	

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー (抜粋)
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1) 幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している。 (2) 人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。</p> <p>2. 汎用的技能 患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。</p>	<p>放射線技術科学専攻及び検査技術科学専攻では、幅広い教養と豊かな人間力を基盤として、保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 「教養教育」を通じて、人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し、社会性及び人間関係の形成を理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力、国際的な広い視野を修得させる。</p> <p>3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育てるための実習を通し、保健学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。</p> <p>4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。</p> <p>5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて専門性を深化させ、「卒業研究」により自主的・創造的な学究の姿勢と専門分野における主体性・指導性を修得させる。</p>	<p><放射線技術科学専攻> 先進的な放射線科学を修得するために必要な理数系の基礎学力に優れ、医学に対する幅広い知識の修得を積極的に行い、医療人としての豊かな人間性とチームワーク精神を自ら高め、診療放射線技師資格取得をめざす明確な目的意識をもった、医療の発展に寄与できる資質を有する人を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 放射線科学、生命、健康、医療に対する強い関心とそれらを学ぶ意欲があり、自己の能力を高めるための努力を惜しまない人 思考力・判断力 自然科学を理解する基礎学力に優れ、論理的な思考によって物事を理解し、適切な判断ができる人 応用力 将来の技術革新に対応できる人 協働性 お互いの立場や考えを尊重して良好な人間関係を築くことができる人 知識・教養 本専攻の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人 幅広い視野 国際的な視点から地域社会の視点に至るまで、幅広い視野で課題の解決に取り組める人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学 A」、「数学 B」における内容の理解、計算力及び論理的に思考する能力 理 科—「物理基礎」、「物理」における内容の理解、自然科学を理解する基礎学力と科学的に思考する能力 外国語、国語—基礎的な読解力・作文力・コミュニケーション能力 地 歴・公 民—将来、地域や国際社会で医療人として、また、良識をもった人間として活躍するために必要な知識や素養</p> <p>●入学選抜の基本方針 一般入試 (前期日程) 大学入試センター試験で「思考力・判断力」、「知識・教養」を評価し、個別試験ではこれらに加えて「応用力」も評価します。自然科学を理解する基礎学力に優れ、論理的に判断・行動する資質をもつ人を総合的に選抜します。 一般入試 (後期日程) 大学入試センター試験で「思考力・判断力」、「知識・教養」を評価し、個別試験では、「思考力・判断力」「関心・意欲・態度」「応用力」「協働性」「幅広い視野」を総合的に評価します。知識のみならず、思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。 推薦入試Ⅱ (大学入試センター試験を課す) <主体性重視型> 大学入試センター試験でより深い「思考力・判断力」、「知識・教養」を評価し、個別試験では、「関心・意欲・態度」「協働性」「幅広い視野」も重点的に評価します。高等学校等段階における多様な能力、関心などを重視し、それを表現できる人を総合的に選抜します。 私費外国人留学生入試 日本留学試験で「日本語の語学力」「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験でこれらに加えて「関心・意欲・態度」「応用力」「協働性」「幅広い視野」を評価します。自然科学を理解する基礎学力に優れ、論理的に判断・行動する資質をもつ人を総合的に選抜します。 編入学入試 個別試験 (外国語) で「思考力・判断力」「応用力」「知識・教養」を評価します。個別試験 (個人面接) でこれらに加えて「関心・意欲・態度」「協働性」「幅広い視野」を総合的に評価します。知識のみならず、思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。</p> <p><検査技術科学専攻> 医学ならびに医療に対する関心が高く、国際的な視野と豊かな人間性をもち、医療人として臨床検査技術を身につけ、応用できる能力を育成するために必要な学力を有する人を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 生命科学や医学、医療に強い関心があり、自分で明確な目標をもって意欲的に学習に取り組める人 探 究 力 好奇心旺盛で、自分の興味があることについて徹底的に探究しようとする人 表 現 力 集団の中で自分の意見をはっきりと伝えることができる人 知識・教養 高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人 思考力・判断力 自分のもっている知識や教養をもとに考慮して、客観的に適切な判断ができる人 協働性 問題解決のために対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 理 科—「化学」、「生物」及び「物理」の幅広い知識と科学的な探究心 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学 A」、「数学 B」における内容の理解、基本的な概念や原理・法則を理解する能力と数学的な思考力 外国語、国語—地域社会や国際的分野において活躍するための基礎的なコミュニケーション能力・読解力 地歴・公民—将来、良識ある社会人として地域で活躍するために必要な基本的な知識と素養</p> <p>●入学選抜の基本方針 一般入試 (前期日程) 大学入試センター試験と個別試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価します。より深い知識とともに</p>

		<p>に、思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）</p> <p><主体性・表現力重視型></p> <p>大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、「探究力」「表現力」「関心・意欲・態度」「協働性」を評価します。学ぶ意欲や自分で課題を発見し、自主的に判断・行動できる確かな資質をもつ人を選抜します。</p> <p>私費外国人留学生入試</p> <p>日本留学試験で「日本語の語学力」, 「思考力・判断力」, 「知識・教養」を評価します。これに加えて個別試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個人面接で「探求力」「表現力」「関心・意欲・態度」「協働性」を評価します。学ぶ意欲や自分で課題を発見し、自主的に判断・行動できる確かな資質をもつ人を選抜します。</p> <p>3年次編入学試験</p> <p>個別試験（外国語・小論文）で「思考力・判断力」「知識・教養」「表現力」を評価します。個別試験（個人面接）で「探求力」「表現力」「関心・意欲・態度」「協働性」を評価します。学ぶ意欲や自分で課題を発見し、自主的に判断・行動できる確かな資質をもつ人を選抜します。</p>
--	--	--

(医学部：保健学科 放射線技術科学専攻)

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している。</p> <p>(2) 人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>人間理解のための幅広い教養と専門分野の基盤となる科学的な知識を修得できるよう一般教養教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、国際的な広い視野と国際的・地域的文化への理解力を涵養できるよう教養教育科目及び学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>人体の構造と機能及び疾病を系統立てて理解できるよう学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>学修設計に応じて主体的に学び、段階的に専門性を深化させることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>理工学及び情報科学の基礎知識を修得できるよう専門分野の基盤となる科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>放射線科学、生命、健康、医療に対する強い関心とそれらを学ぶ意欲があり、自己の能力を高めるための努力を惜しまない人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>自然科学を理解する基礎学力に優れ、論理的な思考によって物事を理解し、適切な判断ができる人</p> <p>応用力</p> <p>将来の技術革新に対応できる人</p> <p>協働性</p> <p>お互いの立場や考えを尊重して良好な人間関係を築くことができる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本専攻の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人</p> <p>幅広い視野</p> <p>国際的な視点から地域社会の視点に至るまで、幅広い視野で課題の解決に取り組める人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力を修得できるよう教養教育科目と学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>地域創生・地域貢献に求められる資質と医療分野の横断的な基盤を獲得できるよう地域科学教育科目群と医療基盤教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>心身の健康に関わる自己管理能力を修得できるよう基礎基盤教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	

<p>3. 態度・志向性</p> <p>各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>保健学の複合的な視点と態度・志向性を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を系統的・段階的に修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>画像診断と放射線治療に関する専門知識と技術を系統的に修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>医用画像診断装置、放射線治療機器等の構成、動作原理及び保守管理法を理解できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>法令を遵守した安全管理の知識と技術を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>最新の科学・技術の修得を可能とし、高い専門能力を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけることができるよう臨地・臨床実習を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>生涯に渡って学び続ける力を身につけ、医学の発展に寄与し、自らの能力・専門性を高めることができるよう専門教育科目に研究を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験、課題学修成果資料、発表、実技試験、課題レポートにより、到達度を客観的に評価する。</p> <p>臨床実習の履修開始前に、基本的臨床技能を客観的臨床能力評価基準に基づいて評価する。</p> <p>卒業研究は、研究過程、発表・諮問、研究論文により客観的に評価する。</p>	

(医学部：保健学科 検査技術科学専攻)

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している。</p> <p>(2) 人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>人間理解のための幅広い教養と専門分野の基盤となる科学的な知識を修得できるよう一般教養教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、国際的な広い視野と国際的・地域的文化への理解力を涵養できるよう教養教育科目及び学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>人体の構造と機能及び疾病を系統立てて理解できるよう学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>学修設計に応じて主体的に学び、段階的に専門性を深化させることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>臨床検査に関する学問知識を系統的に修得し、臨床検査結果を正確に解釈できる能力を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 生命科学や医学、医療に強い関心があり、自分で明確な目標をもって意欲的に学習に取り組める人</p> <p>探 究 力 好奇心旺盛で、自分の興味があることについて徹底的に探究しようとする人</p> <p>表 現 力 集団の中で自分の意見をはっきりと伝えることができる人</p> <p>知識・教養 高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 自分のもっている知識や教養をもとに考慮して、客観的に適切な判断ができる人</p> <p>協 働 性 問題解決のために対等の立場で協力できる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力を修得できるよう教養教育科目と学科共通科目を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>地域創生・地域貢献に求められる資質と医療分野の横断的な基盤を獲得できるよう地域科学教育科目群と医療基盤教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>心身の健康に関わる自己管理能力を修得できるよう基礎基盤教育科目群を教養教育科目に配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	

<p>3. 態度・志向性</p> <p>各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>保健学の複合的な視点と態度・志向性を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を系統的・段階的に修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>臨床検査の安全で正確な取り扱いができ、病態の診断における臨床検査の重要性を理解できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>臨床検査分野における問題を発見し、解決しようとする能力を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>高度化、専門化する医療に関する最新の知識を修得し、保健・医療・福祉分野の多様化するニーズを把握できる能力を身につけることができるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験及び課題レポート等により、到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけることができるよう臨地・臨床実習を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>生涯に渡って学び続ける力を身につけ、医学の発展に寄与し、自らの能力・専門性を高めることができるよう専門教育科目に研究を配置した教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学修段階に応じて講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的・能動的な学びを積極的に図るため、グループディスカッション、ブレンド型授業、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>到達度確認試験、課題学修成果資料、発表、実技試験、課題レポートにより、到達度を客観的に評価する。</p> <p>臨床実習の履修開始前に、基本的臨床技能を客観的臨床能力評価基準に基づいて評価する。</p> <p>卒業研究は、研究過程、発表・諮問、研究論文により客観的に評価する。</p>	

学士課程（歯学部）

大学の目的（学則 第1条）
徳島大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の精神に則り、有為な人材を育成し、学術の研究を推進し、社会貢献を果たし、もって人類の福祉と文化の向上に貢献することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的（学部規則等から抜粋）
本学部は、口腔と全身の健康に係る教育、研究、診療を通じて、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

学士課程（歯学部）

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 歯科専門職に求められる知識と技能を有する。 2. 汎用的技能 患者・家族やチーム医療関係者と良好なコミュニケーションができる。 3. 態度・志向性 専門職業人として好ましい態度、習慣と倫理観を持って行動できる。 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 医療に関して高い関心を持ち、諸問題について自ら学び、課題解決にあたることができる。 	<p>歯学部では豊かな教養と高い倫理性を基盤として、歯科保健医療に関する高い専門能力を備え、健康長寿の推進に貢献できる人材の育成をめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育においては、専門分野を理解するために必要な基礎科学の知見を理解させるとともに、様々な体験を通じて人間力や社会性を身につけることをめざし、臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させ、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。 2. 歯科基礎医学系科目群においては、最新の歯科医療を理解するための基盤となる専門知識を修得させ、さらに問題の発見と解決に能動的に取り組むためのリサーチマインドを涵養するための科目を配置する。 3. 臨床歯学系科目群においては、最新の歯科医療を実施するための高度な専門知識と技能を修得させるための科目を配置する。 4. チーム医療に必要な幅広い知識および社会から求められる最新の口腔領域の知識・技能を修得させるために、関連する臨床医学系科目群と新領域の専門科目を配置する。 5. 希望者では選択科目の履修により社会福祉士国家試験受験資格を得ることができるよう配慮した科目編成を行う。 6. 学んだ知識・技能・態度・教養を統合するために、臨床実習を配置する。 	<p>豊かな人間性を基盤として、医療・保健・福祉を通して健康長寿の推進への情熱と、教育・研究を通して人類の知を発展させる意欲にあふれた人材に成長できる人物を求めています。</p>

学士課程（歯学部：歯学科）

【学士（歯学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。</p> <p>2. 汎用的技能 論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。</p> <p>3. 態度・志向性 歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。</p>	<p>歯学科では豊かな教養と高い倫理性を基盤として、歯科保健医療に関する高い専門能力を備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 教養教育においては、専門分野を理解するために必要な基礎科学の知見を理解させるとともに、様々な体験を通じて人間力や社会性を身につけることをめざして、臨床実践に必要なコミュニケーション能力を修得させ、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせるための科目を配置する。</p> <p>2. 2・3年次の歯科基礎医学系科目群においては、最新の歯科医療を理解するための基盤となる専門知識を修得させ、さらに問題の発見と解決に能動的に取り組むためのリサーチマインドを涵養するための科目を配置する。</p> <p>3. 3・4年次の臨床歯学系科目群においては、最新の歯科医療を実施するための高度な専門知識と技能を修得させるための科目を配置する。</p> <p>4. 4・5年次においては、チーム医療に必要な幅広い知識および社会から求められる最新の口腔領域の知識・技能を修得させるために、関連する臨床医学系科目群と新領域の専門科目を配置する。</p> <p>5. 5・6年次においては、これまでに学んだ知識・技能・態度・教養を統合するために、臨床予備実習及び診療参加型臨床実習を配置する。</p>	<p>生命科学に興味と情熱をもち、人間的な優しさをそなえた歯科医師・歯学研究者をめざす、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 ・患者の立場を理解できる豊かな人間性をもつ人 ・歯科医療の発展への情熱をもち、生涯にわたって貢献しようと考えている人 ・歯科医療で国際的な活動をしたいと思っている人 ・歯科医学に関係する研究に関心をもち、新しい発見や治療法の開発に貢献したいと思っている人</p> <p>表現力 自分の意見や考えを相手に伝えることができる人</p> <p>知識・教養 本学科で歯科医学を学び、生涯にわたって学びを継続するために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識と教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 広い視野と論理的思考をもって行動できる人</p> <p>協働性 オープンマインドな姿勢で他者と協力して課題に取り組める人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 英語、国語—新聞や書籍（英文も含む）等を積極的に熟読し、読解力や論理的思考力を身につける。</p> <p>理 科—理科は化学、物理および生物の知識がすべて必要となり、大学受験で選択した以外の理科の科目についても修得が必要です。合格者には、入試で選択しなかった科目を学習してもらうため、入学までに取り組むべき課題を提供する予定です。</p> <p>数 学—高等学校等で履修した数学を再確認し、数学的思考ができるようにする。</p> <p>地歴・公民—社会全般（高校で履修しなかった教科も含む）にわたって興味をもち、世界的視点から日本の文化、思想、制度、歴史及び地理について考察できるようにしておく。</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験では「思考力・判断力」「知識・教養」「関心・意欲・態度」「協働性」「表現力」を評価します。知識のみならず、学ぶ意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に評価し選抜します。</p> <p>一般入試（後期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では「思考力・判断力」「協働性」を重点的に評価し、「関心・意欲・態度」「表現力」を合わせて評価します。優れた思考力に基づいてみずから課題を発見し、協働して解決できる人を総合的に評価し選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す） ＜主体性・表現力重視型＞ 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では2段階に渡って「関心・意欲・態度」「表現力」「思考力・判断力」「協働性」を重点的に評価します。高等学校等段階における多様な能力、歯科医療に対する高い関心と意欲等を重視し、それを深く表現できると同時に、協働性に富む人を総合的に評価し選抜します。</p> <p>帰国子女特別入試 基礎学力テストで入学後の学習に必要な「思考力・判断力」「知識・教養」を備えているか評価します。また、小論文と個人面接で「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し、「思考力・判断力」「協働性」を合わせて評価します。みずからの海外経験に基づいた斬新な発想や思考と、それを深く表現できる力を重視し、協働性に富む人を総合的に評価し選抜します。</p>

		<p>私費外国人留学生入試 日本留学試験, TOEFL および個別学力検査で入学後の学習に必要な「思考力・判断力」「知識・教養」を備えているかを評価します。また、面接で「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し、「協働性」を合わせて評価します。日本文化に強い関心を持つと同時にグローバルな視点からの発想力を備え、それを日本人学生と共有して課題を発見し、協働して解決できる人を総合的に評価し選抜します。</p> <p>編入学 第1次選抜では基礎学力試験で入学後の学習に必要な「思考力・判断力」「知識・教養」を備えているかを評価します。また、小論文で「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価します。第2次選抜では「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「関心・意欲・態度」「思考力・判断力」を合わせて評価します。さらに背景の異なる多様な知識や幅広い視点、高い問題意識を備え、周囲と協働して課題を発見し、解決できる人を総合的に評価し選抜します。</p>
--	--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解 患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。</p>	<p>【学修内容】 教養教育においては、専門分野に繋がる基礎科学の知見を理解させるとともに、外国語教育科目、一般教養科目を学ばせる。2・3年次においては、歯科医療の基盤となる歯科基礎医学系科目群を学ばせ、3・4年次には最新の歯科医療を実施するための高度な専門知識と技能を修得させるために、臨床歯学系科目群を学ばせる。4・5年次においては、関連する臨床医学系科目群と新領域の専門科目を学ばせ、5・6年次において、以上の知識・技能・態度・教養を統合するために、臨床予備実習及び診療参加型臨床実習を行う。</p> <p>【学修方法】 教養教育から基礎および臨床歯学教育まで、主に講義を中心として学修を行うが、それぞれの更なる理解のために、多くの科目で実習を伴う。1年次のSIH道場のプログラムの中で、PBLやTBLの方法を学び、専門課程においても、反転授業を含む講義や症例検討などでアクティブラーニングの手法を組み込んでいる。臨床実習では、実際の診療に参加し、その場での活動をポートフォリオにまとめさせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義・実習の多くは筆記試験により評価を行う。また実習の一部では、口頭試問、個人あるいはグループ発表の方法を用いるほか、作成するポートフォリオの評価や、ルーブリック評価により、実習中の態度評価を行う。技能・態度は臨床実習時の評価と臨床実習後OSCEで総合的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 ・患者の立場を理解できる豊かな人間性をもつ人 ・歯科医療の発展への情熱をもち、生涯にわたって貢献しようと考えている人 ・歯科医療で国際的な活動をしたいと思っている人 ・歯科医学に関係する研究に関心をもち、新しい発見や治療法の開発に貢献したいと思っている人</p> <p>表現力 自分の意見や考えを相手に伝えることができる人</p> <p>知識・教養 本学科で歯科医学を学び、生涯にわたって学びを継続するために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識と教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 広い視野と論理的思考をもって行動できる人</p> <p>協働性 オープンマインドな姿勢で他者と協力して課題に取り組める人</p>
<p>2. 汎用的技能 論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。</p>	<p>【学修内容】 日本語の論理的な文章作成・口頭説明に関しては、1年次のSIH道場においてアカデミックライティングやグループ討議の時間に初期教育を行う。英語教育に関しては、教養教育においてプログラムを用意するほか、専門課程においても科目「歯科英語」を用意する。尚、歯学部内に設置しているIFR（国際交流室）の活動においても、交換留学生、一般留学生との交流の中でグローバルなコミュニケーションを学ばせる。</p> <p>【学修方法】 SIH道場ではPBL法によるコミュニケーションの学び、読書レポートにおける文章作成のトレーニングを行う。英語プログラムでは講義やロールプレイングなどで英語と背景にある文化を学ばせる。IFR（国際交流室）の活動においては、実際に交換留学生をエスコートするなどの体験からコミュニケーションを学ばせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 SIH道場ではルーブリック評価もしくは、レポートの添削の形で評価を行う。英語プログラムは、筆記試験やルーブリックを用いた評価を行う。英語活動に関しては、1・3年次に受験するTOEFL-ITPの得点と、英語科目の得点、IFRなどにおける英語活動のポイントを合わせてマイレージポイントとして集計し、必要ポ</p>	

<p>3. 態度・志向性</p> <p>歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。</p>	<p>イントを満たすことを卒業条件としている。</p> <p>【学修内容】 1年次のSIH道場ではPBL法によるコミュニケーションのほか、医歯薬合同ワークショップにおいて、医療における問題点について討議を行う。このような機会は、医学科4年・歯学科4年・口腔保健学科3年の合同ワークショップでも、もたれている。また2-3年次に行われる解剖実習においても、死と献体について考える機会を持たせている。 医療倫理・医療安全に関しては、2年前期の早期体験実習の中で講義・実習を行うとともに、臨床予備実習においても再度講義する。尚、診療参加型臨床実習において身を持って体験させる。</p> <p>【学修方法】 グループ討議や解剖実習、臨床予備実習及び診療参加型臨床実習を通して学ばせる。研究倫理に関してはeラーニングによる研究倫理教育プログラムの受講を義務化するとともに、教養教育において「現代科学と研究倫理」の受講を必修としている。</p> <p>【学修成果の評価方法】 SIH道場・臨床予備実習ではルーブリック評価もしくは、個人あるいはグループ発表の形で評価を行う。診療参加型臨床実習においては、ポートフォリオや口頭試問により評価を行う。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。</p>	<p>【学修内容】 1年次の医歯薬合同ワークショップあるいは医学科4年・歯学科4年・口腔保健学科3年の合同ワークショップにおいて、医療における問題点について討議を行う。2年前期の早期体験実習の中では、1対1で担当臨床教員に影のように寄り添い、診療室での医療活動を観察することにより「歯科医師としてのあるべき姿」を体感させる。そして5年次以降臨床予備実習及び診療参加型臨床実習を行う。</p> <p>【学修方法】 合同ワークショップは、PBL形式による。早期体験実習は、診療体験であり、臨床予備実習ではPBLによる問題解決を含んだ臨床実習への準備のためのトレーニングであり、診療参加型臨床実習で実際に診療を学ばせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 SIH道場・臨床予備実習ではルーブリック評価もしくは、個人あるいはグループ発表の形で評価を行う。診療参加型臨床実習においては、ポートフォリオや口頭試問により評価を行う。</p>	

【歯学部：口腔保健学科】 【学士（口腔保健学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 口腔保健・福祉を理解し、その専門知識と技能を有する。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助に関する基本的技能を有する。 (2)患者やその家族あるいは保健・医療・福祉関係者と良好なコミュニケーションができる。 (3)チーム医療や保健福祉活動の一員として、その役割を果たすことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)口腔保健・福祉の学習を通じて社会人としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。 (2)医療や介護を必要とする人々に対して、慈しみと思いやりの心をもって支援することができる。 (3)歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化に高い関心を持ち続け、生涯にわたり自主的かつ継続的に学習する能力を持つ。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 関連分野における事象や課題について自ら学び、適切な判断と必要な行動ができる。</p>	<p>口腔保健学科では、口腔保健及び福祉の専門知識と技能を身につけ、健康長寿の推進に貢献できる人材の育成をめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 1・2年次の教養教育や専門教育科目での様々な体験学習を通じて人間力や社会性を身につけさせることをめざし、臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 問題解決型授業や客観的臨床能力試験などを組み込んだ授業を通じて口腔保健に関する知識や技能を習得させ、臨床・臨地実習により、態度教育を含めた歯科衛生士専門教育の習熟を図る。</p> <p>3. 選択科目の履修により社会福祉士国家試験受験資格を得ることができるよう配慮した科目編成を行う。また、問題解決型授業や演習などを組み込んだ授業を通じて福祉に関する知識や技能を習得させ、社会福祉実習に繋がる福祉教育を行う。</p> <p>4. 「卒業研究」で専門性と総合性を統合させる。</p>	<p>人間的な優しさを持ち、口腔保健及び福祉の専門知識と技能を身につけ健康長寿の推進に貢献できる、次のような人物を求めています</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 ・学習意欲・好奇心が旺盛で、チャレンジ精神のある人 ・歯や口の健康に興味をもち、歯科の病気の予防に貢献したいと考える人 ・高齢者や障害者などに関する現代社会・地域社会の諸問題を見据え、その解決に貢献したいと考える人</p> <p>表現力 自分の考えや意見を論理的に説明できる人</p> <p>知識・教養 本学科の専門分野を学び、将来にわたって学びを継続するために、高等学校等で修得すべき※全領域の科目にわたる知識・教養をバランスよくもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性 チーム医療における問題解決のために、職種や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 英語－基礎的なコミュニケーション能力や</p>

		<p>読解力を身につけておく。</p> <p>理科—理科の学習を通じて自然科学に深い関心を持ち、その基礎的な考え方を身につけておく。</p> <p>国語—国語の学習を通じて、現代人としての常識的な知識とともに、日本語による論理的な記述力やコミュニケーション能力を身につけておく。</p> <p>数学—単に公式を暗記し問題に当てはめるだけではなく、論理的な思考を展開するために必要な理解力と応用力を身につけておく。</p> <p>地歴・公民—地歴・公民に広く関心を持ち、多様な価値観や世界観、考え方があることを理解しておく。</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>一般入試（前期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験では「思考力・判断力」「知識・教養」「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を評価します。知識のみならず、学ぶ意欲や、自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>一般入試（後期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価します。個別試験では個人面接を行い、口腔保健に対する「関心」や「意欲」、さらには「協働性」を評価し、それを表現できる人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す） <主体性・表現力重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階に渡って「関心・意欲・態度」「表現力」「思考力・判断力」「協働性」を重点的に評価します。高等学校等段階における多様な能力、口腔保健に対する「関心」や「意欲」を重視し、それを深く表現できると同時に協働性に富む人を総合的に評価し選抜します。</p>
--	--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>口腔保健・福祉を理解し、その専門知識と技能を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>1・2年次の教養教育や専門教育科目では講義を中心として専門知識と技能を学修させる。さらに様々な体験学習や問題解決型学習によって臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>1年次に受講する専門教育科目「歯科衛生士概論」、2年次の「オーラルヘルスプロモーション」では講義に加えて問題解決型学習、チュートリアル授業を多く取り入れ、臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>PBL・チュートリアル授業ではチューターが能動的参加状況の評価する。講義については筆記試験、口頭試験によって総括的評価を行う。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲・好奇心が旺盛で、チャレンジ精神のある人 ・歯や口の健康に興味を持ち、歯科の病気の予防に貢献したいと考える人 ・高齢者や障害者などに関する現代社会・地域社会の諸問題を見据え、その解決に貢献したいと考える人 <p>表現力</p> <p>自分の考えや意見を論理的に説明できる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学科の専門分野を学び、将来にわたって学びを継続するために、高等学校等で修得すべき※全領域の科目にわたる知識・教養をバランスよくもつ人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1) 歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助に関する基本的技能を有する。</p> <p>(2) 患者やその家族あるいは保健・医療・福祉関係者と良好なコミュニケーションができる。</p> <p>(3) チーム医療や保健福祉活動の一員として、その役割を果たすことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門教育科目において口腔保健に関する知識や技能を修得させ、さらに3年次後期から始まる「臨床・臨地実習」にて態度教育を含めた歯科衛生士専門教育の習熟を図る。</p> <p>【学修方法】</p> <p>専門教育科目では種々のアクティブラーニングを取り入れた授業を实践し、併せて「チーム歯科医療学基礎実習」、「口腔疾患予防学実習」のなかで口腔保健に関する汎用的技能を修得させる。さらに臨床・臨地実習では、良好なコミュニケーション能力、チーム医療や保健福祉活動の一員としての役割を修得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>専門教育科目は筆記試験によって、基礎実習は客観的臨床能力試験によって汎用的技能を評価する。これらの試験合格者のみがその後始まる「臨床・臨地実習」に参加できる。「臨床・臨地実習」の評価は本学科教</p>	<p>協働性</p> <p>チーム医療における問題解決のために、職種や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p>

	員と大学病院教員，学外臨床教員らが予め評価項目を協議し，それにそって形成的評価を繰り返す。	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)口腔保健・福祉の学習を通じて社会人としての自覚を持ち，その責任を果たすことができる。</p> <p>(2)医療や介護を必要とする人々に対して，慈しみと思いやりの心をもって支援することができる。</p> <p>(3)歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化に高い関心を持ち続け，生涯にわたり自主的かつ継続的に学習する能力を持つ。</p>	<p>【学修内容】 口腔保健・福祉科目において，医療や介護を必要とする人々に対する慈しみと思いやりの心，生涯にわたり自主的かつ継続的に学習する態度を修得させる。</p> <p>【学修方法】 問題解決型授業・演習・アクティブラーニングを中心とした学修にて口腔保健と社会福祉に関する能動的な問題解決能力を修得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 臨床・臨地実習では実習日誌と口頭試問によって形成的評価を繰り返す。また社会福祉系科目においては相談援助演習，相談援助実習指導にて複数回の形成的評価を行い，社会福祉関連施設での実習発表会にて総括的評価を行う。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 関連分野における事象や課題について自ら学び，適切な判断と必要な行動ができる。</p>	<p>【学修内容】 「臨床・臨地実習」および「卒業研究」にて専門性と総合性を統合させる。</p> <p>【学修方法】 「臨床・臨地実習」においては大学病院・大学外関連施設毎の実習日誌の提出を求める。「卒業研究」は学生の希望と教員の専門性を考慮して指導教員と課題を決定し，その課題について自ら学び，適切な判断と必要な行動ができるように研究を進めさせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 「臨床・臨地実習」は筆記試験、教員による態度評価，実習日誌の得点をあわせて総合的に評価する。また「卒業研究」については研究発表会と卒業論文作成をもって学科教員が総合的に評価する。</p>	

学士課程（薬学部）

大学の目的（学則 第1条）
徳島大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の精神に則り、有為な人材を育成し、学術の研究を推進し、社会貢献を果たし、もって人類の福祉と文化の向上に貢献することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的（学部規則等から抜粋）
本学部は、生命科学を基盤とする薬学を研究・教授することを通して、薬の専門家としての知的・技術的基盤形成に必要な教育と深く医療に関わる使命感と倫理観を持たせる教育を行い、以て、人類の福祉と健康に貢献する人材を育成することを目的とする。

学士課程（薬学部）

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 人類の福祉と健康に関わる多様な分野で活躍できる薬の専門家としての専門的知識を修得している。</p> <p>2. 汎用的技能 医療、科学、社会の発展・高度化に対応できる薬の専門家としての実践能力を修得している。</p> <p>3. 態度・志向性 高い倫理観、豊かな人間性、柔軟な科学的思考とコミュニケーション能力を有し、薬の専門家として責任を持った行動を取ることができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 医療の進歩に対応できる課題発展能力・問題解決能力を修得し、生涯にわたり学習意欲、未踏分野への開拓精神を維持向上させ、薬学の発展に寄与できる。</p>	<p>薬学部では、指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者・教育者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 薬学部の新たな教育理念である「インタラクティブ YAKUGAKUJIN（薬学が関係する諸分野の連携を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材）の育成」に則り、自らの能力を客観的に把握でき、物事を俯瞰的に捉え、進取の気風のもとに自立して未知の課題を解決できる人材を養成する。これらを通じて、持続可能な社会づくりの担い手たる資質も身につけさせる。</p> <p>2. 教養教育では、幅広い教養および基礎科学の知識や柔軟な科学的思考、そして生涯にわたり学び続ける姿勢を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。</p> <p>3 専門教育では、講義、実習、演習および卒業研究を通じて、医薬品の性質や使用に関する知識と技能、医薬品の創製に関する高度な専門的知識と技能を修得させるとともに、課題発展能力、問題解決能力、高度化する医療や創薬の進歩に対応できる能力を身につけさせる。</p> <p>4. 6年制学科（薬学科）では、4年次の実務実習事前学習を経て薬学共用試験に合格した学生に、5年次において医療薬学・病院実習および薬局実習を履修させる。4年制学科（創製薬科学科）では、学部と大学院の一貫教育・研究を行う。これらを通じて、指導的役割を担う薬剤師としての高い能力や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者・教育者を養成する。</p>	<p>薬学部の教育方針は、多様な薬学分野を基盤とした幅広い知識と技能を身につけ、薬学を含む種々の職能領域と相互連携しうる能力をもち、自ら活躍できる場を積極的に開拓できる可能性をもった人材（インタラクティブ YAKUGAKUJIN）を育成することです。したがって、徳島大学薬学部では既成概念にとらわれない柔軟な思考能力をもち、向学心に満ち、未踏分野の開拓精神に溢れた人材を求めています。入試では、アドミッション・ポリシーにあった人材を募集し、各学科の教育理念に応じたカリキュラムのもとで教育を行います。</p>

学士課程（薬学部：薬学科）

【学士（薬学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー（抜粋）
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 社会の医療ニーズに対応できる薬の専門家としての専門的知識を修得している。</p> <p>2. 汎用的技能 高度化する医療に対応できる薬の専門家としての実践能力を修得している。</p> <p>3. 態度・志向性 高い倫理観、豊かな人間性、柔軟な科学的思考とコミュニケーション能力を有し、医療人としての責任を持った行動を取ることができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 医療の進歩に対応できる課題発展能力・問題解決能力を修得し、生涯にわたり学習意欲、未踏分野への開拓精神を維持向上させ、薬学の発展に寄与できる。</p>	<p>薬学科では、臨床の場で指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師、薬学研究者・教育者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 教養教育では、幅広い基礎科学の知識や柔軟な科学的思考を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。</p> <p>2. 専門教育では、臨床の場での指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師養成を目的とし、モデルコアカリキュラムに基づいた講義、実習、演習のほか、特色ある授業科目を通じて、医薬品の性質や使用に関する知識と技能を修得させる。</p> <p>3. 医療人としての職業倫理や責任感を身につけさせるために、4年次に実務実習事前学習や薬学共用試験を受験させ、その試験を合格した学生に対して、5年次に病院実習および薬局実習を実施するとともに、卒業研究を通じ、課題発展能力、問題解決能力、研究マインドと医療ニーズに対応できる能力を修得させる。さらに、研究成果の発表を通じて、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を向上させる。</p>	<p>薬学を基盤とし、薬剤師、薬学研究者・教育者として、薬物療法およびそれに資する科学の発展を通じた医療全体の向上に、情熱、倫理観、使命感をもって貢献できる人材を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 薬学にかかわる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり、自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人 探 究 力 自分が関心をもったことを深く掘り下げて探究し、その中から新たな問題・課題を発見できる人 表 現 力 自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に、相手の視点に立って表現できる人 知識・教養 薬学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※基礎的かつ広範な知識や教養を有する人 思考力・判断力 将来、薬物療法の専門家として、修得した知識・教養・技能を基盤に、思考を深化、展開させ、科学的エビデンスに基づいて未知の課題に対して適切な解を判断できる素養を有する人 協 働 性 将来、薬物療法の専門家として、多職種の人と協働でき、活躍できる素養を有する人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 理 科—理系科目については、薬学を学ぶ上での基礎的な知識として、化学に加え、物理と生物の両科目の履修を希望 数 学—理系数学についての基本的な知識・技能と論理的思考法 英語、国語—将来、薬学部で学んだ知識や成果を論理的に表現し、さらにそれらを世界に発信する必要がある。したがって、英語・国語の基礎的な読解力、表現力、発信力、コミュニケーション能力を身につけておく そ の 他—将来、薬剤師、薬学研究者・教育者として活躍するためには、上記以外の科目もおろそかにせず、また部活やボランティア等、様々な活動に積極的に取り組むことで、幅広い視野と高い倫理観、豊かな人間性を育んでもらいたい</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を評価します。</p> <p>AO入試（大学入試センター試験を課す） ＜インタラクティブ YAKUGAKUJIN・「操薬＊1」リーダー育成型＞ 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え、高等学校等段階における経験、関心等を特に重視して「関心・意欲・態度」「探究力」「表現力」「協働性」を合わせて評価し、薬学研究、医療が抱える多様な課題に対する広い興味と強い意欲をもつ人を総合的に選抜します。 なお、薬学科AO入試では、インタラクティブ YAKUGAKUJIN の人材育成方針に基づき、薬学科で学ぶために必要不可欠な資質とリーダー性をより深く評価することを目的としています。</p> <p>＊1 操薬とは、薬を効果的にあやつる（操る）こと、すなわち、効かせたい場所に、安全に適切な量を運び届け、薬効を発揮させることを意味します。</p> <p>私費外国人留学生入試 日本留学試験等の成績で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を評価します。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解 社会の医療ニーズに対応できる薬の専門家としての専門的知識を修得している。</p>	<p>【学修内容】 教養教育における自然科学・生命健康科学系の理系基盤教育と、専門科目における薬学の基礎となる有機化学、生物化学、物理化学等を重点的に学修させ、その学修成果を基盤とし、医療系教科目、演習等、モデルコアカリキュラムに基づいた体系的カリキュラムにより、臨床の場において必要な専門的知識を修得させる。</p> <p>【学修方法】 講義では、アクティブラーニングを導入するとともに、視聴覚教材を有効に使用し、理解度の向上を図る。また、薬学英语などを含む教科目では担任クラス毎の少人数による教育により、学修効果を高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により評価する。また、試験を実施しない教科目については、ルーブリック評価表にもとづき客観的な評価を行う。</p>	<p>関心・意欲・態度 薬学にかかわる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり、自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人</p> <p>探究力 自分が関心をもったことを深く掘り下げて探究し、その中から新たな問題・課題を発見できる人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に、相手の視点に立って表現できる人</p> <p>知識・教養 薬学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※基礎的かつ広範な知識や教養を有する人</p> <p>思考力・判断力 将来、薬物療法の専門家として、修得した知識・教養・技能を基盤に、思考を深化、展開させ、科学的エビデンスに基づいて未知の課題に対して適切な解を判断できる素養を有する人</p>
<p>2. 汎用的技能 高度化する医療に対応できる薬の専門家としての実践能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】 専門科目で学修した知識・基礎的技能を基盤として、病院実習および薬局実習において、医療現場で求められる薬剤師として必要な実践能力を修得させる。また、それらにおいて修得した知識・経験をもとに問題に取り組む演習を実施する。</p> <p>【学修方法】 病院実習および薬局実習を実施した後に、模擬症例を用いた問題解決型の演習により、実践的な問題解決能力の醸成を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 実習先の指導薬剤師がルーブリック評価表により客観的に評価を行う。また、演習においては、学生自身がルーブリックにより学修前後における到達度についての自己評価を行うとともに、教員がルーブリック評価表により総合的な評価を行う。</p>	<p>協働性 将来、薬物療法の専門家として、多職種の人と協働でき、活躍できる素養を有する人</p>
<p>3. 態度・志向性 高い倫理観、豊かな人間性、柔軟な科学的思考とコミュニケーション能力を有し、医療人として責任を持った行動を取ることができる。</p>	<p>【学修内容】 薬学体験実習、薬剤師体験演習、薬学入門、キャリアパスデザイン講義、SIH道場などを通じ、医療人として求められる倫理観、人間性、社会性等を修得させる。また、演習などにおけるグループディスカッション、各研究室での研究活動、及び病院実習並びに薬局実習における、指導教員、他の研究室学生、及び指導薬剤師とのコミュニケーションを通して、協働性、社会性等を醸成する。</p> <p>【学修方法】 アクティブラーニングを取り入れた演習、実習などにおけるグループワーク、研究室での研究活動、及び病院実習並びに薬局実習を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 発表会などを実施するとともに、ルーブリック評価表による評価を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 医療の進歩に対応できる課題発展能力・問題解決能力を修得し、生涯にわたり学習意欲、未踏分野への開拓精神を維持向上させ、薬学の発展に寄与できる。</p>	<p>【学修内容】 卒業研究では、各研究室において学生ごとに設定された研究課題を実施することにより、研究遂行能力、問題発見・解決能力の醸成をはかる。また、得られた成果の発表会において、効果的なプレゼンテーションや質疑応答に必要な技術・能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】 学生ごとに設定された研究課題について、配属研究室の教員の指導の下に実験、調査等の研究を実施し、得られた結果等について、教員と議論を重ねることにより、成果をまとめる作業を行わせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 卒業論文、及び発表会における発表と質疑応答をルーブリック評価表を用いて、総合的に評価する。</p>	

(薬学部：創製薬科学科)

【学士 (薬科学)】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー (抜粋)
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 多様な創製薬科学関連分野で活躍できる薬の専門家としての専門的知識を修得している。</p> <p>2. 汎用的技能 高度化する創製薬科学関連分野に対応できる薬の専門家として優れた能力を修得している。</p> <p>3. 態度・志向性 高い倫理観、豊かな人間性、柔軟な科学的思考とコミュニケーション能力を有し、薬科学に携わる者として責任を持った行動を取ることができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 医療の進歩に対応できる課題発展能力・問題解決能力を修得し、生涯にわたり学習意欲、未踏分野への開拓精神を維持向上させ、薬学の発展に寄与できる。</p>	<p>創製薬科学科では、創薬・製薬に関する高い研究能力とともに専門的薬学知識を身につけた創薬研究者、薬学研究者・教育者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 教養教育では、幅広い基礎科学の知識や柔軟な科学的思考を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。</p> <p>2. 専門教育では、創薬・製薬に関する高い研究能力や専門的薬学知識を身につけた研究者の育成を目的とし、創薬科学分野の講義、実習、演習を通じて、サイエンスに関する基盤を十分に修得させた後、卒業研究を通じ、医薬品の創製に関する高度な専門的知識と技能を修得させる。</p> <p>3. 学部と大学院の一貫教育・研究を通じて、多様・高度化する医療や創薬の進歩に対応できる研究者・教育者としての課題発展能力・問題解決能力を修得させる。</p>	<p>薬学を基盤とし、創薬研究者、薬学研究者・教育者として、医薬品創製およびそれに資する科学全体の向上に、情熱、倫理観、使命感をもって貢献できる人材を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 薬学にかかわる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり、自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人 探究力 自分が関心をもったことを深く掘り下げて探究し、その中から新たな問題・課題を発見できる人 表現力 自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に、相手の視点に立って表現できる人 知識・教養 薬学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※基礎的かつ広範な知識や教養を有する人 思考力・判断力 将来、医薬品創製・薬科学の専門家として、修得した知識・教養・技能を基盤に、思考を深化、展開させ、科学的エビデンスに基づいて未知の課題に対して適切な解を判断できる素養を有する人 協働性 将来、医薬品創製・薬科学の専門家として、他分野の人と協働でき、活躍できる素養を有する人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 理 科—理系科目については、薬学を学ぶ上での基礎的な知識として、化学に加え、物理と生物の両科目の履修を希望 数 学—理系数学についての基本的な知識・技能と論理的思考法 英語、国語—将来、薬学部で学んだ知識や成果を論理的に表現し、さらにそれらを世界に発信する必要がある。したがって、英語・国語の基礎的な読解力、表現力、発信力、コミュニケーション能力を身につけておく そ の 他—将来、創薬研究者、薬学研究者・教育者として活躍するためには、上記以外の科目もおろそかにせず、また部活やボランティア等、様々な活動に積極的に取り組むことで、幅広い視野と高い倫理観、豊かな人間性を育んでもらいたい。</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試 (前期日程) 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え「表現力」を評価します。 一般入試 (後期日程) 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え、深い「知識・教養」をもとに、「思考力・判断力」を巡らせて表現できる人(「表現力」)を総合的に評価し、選抜します。 AO入試 (大学入試センター試験を課す) <インタラクティブ YAKUGAKUJIN・「創薬」リーダー育成型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え、高等学校等段階における経験、関心等を特に重視して「関心・意欲・態度」「探究力」「表現力」「協働性」を合わせて評価し、薬学研究に対する広い興味と強い意欲をもつ人を総合的に選抜します。なお、創製薬科学科AO入試では、インタラクティブ YAKUGAKUJIN の人材育成方針に基づき、創製薬科学科で学ぶために必要不可欠な資質とリーダー性をより深く評価することを目的としています。 私費外国人留学生入試 日本留学試験等の成績で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え「関心・意欲・態度」「表現力」を評価します。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>多様な創製薬科学関連分野で活躍できる薬の専門家としての専門的知識を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育における自然科学・生命健康科学系の理系基盤教育と、専門科目における薬学の基礎となる有機化学、生物化学、物理化学等を重点的に学修させ、その学修成果を基盤とし、実習、演習、卒業研究、論文作成演習を介して、創薬研究の場において必要な専門的知識を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義では、アクティブラーニングやグループワークを導入するとともに、視聴覚教材を有効に使用し、理解度の向上を図る。また、薬学英语などを含む教科目では担任クラス毎の少人数による教育により、学修効果を高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験やレポート等により評価する。また、試験を実施しない教科目については、ルーブリック評価表にもとづき客観的な評価を行う。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>薬学にかかわる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり、自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人</p> <p>探究力</p> <p>自分が関心をもったことを深く掘り下げて探究し、その中から新たな問題・課題を発見できる人</p> <p>表現力</p> <p>自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に、相手の視点に立って表現できる人</p> <p>知識・教養</p> <p>薬学部専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※基礎的かつ広範な知識や教養を有する人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>将来、医薬品創製・薬科学の専門家として、修得した知識・教養・技能を基盤に、思考を深化、展開させ、科学的エビデンスに基づいて未知の課題に対して適切な解を判断できる素養を有する人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>高度化する創製薬科学関連分野に対応できる薬の専門家として優れた能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門科目で学修した知識・基礎的技能を基盤として、創薬研究の現場で求められる研究者として必要な実践能力を修得させる。また、それらにおいて修得した知識・経験をもとに問題に取り組む実習・演習を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>モデルコアカリキュラムに沿った実習科目に加え、研究体験演習、医療系演習、創薬プロジェクト演習、学術論文作成法など、創製薬科学科独自の実践的演習科目により研究者としての高度な技能を養成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>実習科目はレポート等により評価する。また、演習においては、実際の創薬研究者による評価、各教員がreviewer となった論文審査などを通して、学生が演習の学修成果を確認できる評価法を取り入れる。また、プレゼンテーションの内容やレポート等により総合的な評価を行う。</p>	<p>協働性</p> <p>将来、医薬品創製・薬科学の専門家として、他分野の人と協働でき、活躍できる素養を有する人</p>
<p>3. 態度・志向性</p> <p>高い倫理観、豊かな人間性、柔軟な科学的思考とコミュニケーション能力を有し、薬科学に携わる者として責任を持った行動を取ることができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究体験演習、医療系演習、創薬プロジェクト演習、薬学入門、キャリアパスデザイン講義、SIH 道場などを通じ、創薬研究者として求められる倫理観、人間性、社会性等を修得させる。また、演習などにおけるグループディスカッション、各研究室での研究活動、指導教員や他の研究室学生とのコミュニケーションを通して、協働性、社会性等を醸成する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>アクティブラーニングを取り入れた演習、実習などにおけるグループワーク、研究室での研究活動を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>発表会などを実施するとともに、ルーブリック評価表による評価を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>医療の進歩に対応できる課題発展能力・問題解決能力を修得し、生涯にわたり学習意欲、未踏分野への開拓精神を維持向上させ、薬学の発展に寄与できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>卒業研究では、各研究室において学生ごとに設定された研究課題を実施することにより、研究遂行能力、問題発見・解決能力の醸成をはかる。また、得られた成果の発表会において、効果的なプレゼンテーションや質疑応答に必要な技術・能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学生ごとに設定された研究課題について、配属研究室の教員の指導の下に実験、調査等の研究を実施し、得られた結果等について、教員と議論を重ねることにより、成果をまとめ卒業論文発表会で発表させる。また、世界に通用する創薬研究者を育成するため、卒業研究発表は英語で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>卒業論文、及び発表会における発表と質疑応答をルーブリック評価表を用いて、総合的に評価する。</p>	

学士課程（理工学部）

大学の目的（学則 第1条）	学部（学科）の教育研究上の目的（学部規則等から抜粋）
徳島大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の精神に則り、有為な人材を育成し、学術の研究を推進し、社会貢献を果たし、もって人類の福祉と文化の向上に貢献することを目的とする。	本学部は、自立した一人の人間として社会の中で力強く生きる力（知力、社会・対人関係力、自己制御力）及び社会や世界の諸問題に対する鋭敏な知覚力を有し、科学技術を通じて高い倫理観をもって解決に取り組む能力を修得させることを目的とする。

（理工学部：理工学科）

学士（理工学）

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1) 数学および自然科学の確かな知識に基づき、複数の理学と工学専門分野を組み合わせ問題解決できる。 (2) 自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。</p> <p>2. 汎用的技能 (1) 情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。 (2) 自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1) 社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。 (2) 自ら考え、行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 (1) 地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。 (2) 世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。</p>	<p>理工学部では、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。</p> <p>2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。</p> <p>3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。</p> <p>4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。</p>	<p>自ら課題を探究し、未知の問題に対して俯瞰的視野から総合的な判断を下すことができる能力を兼ね備え、科学技術のイノベーションに柔軟に対応しながらグローバルに活躍できる理工系人材を養成します。そのため、理工学部理工学科では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標を持っている人 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人 主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」における内容の理解と科学的思考力 国語、英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力 そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、倫理、政治・経済、現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程）（後期日程） 大学入試センター試験と個別試験で「知識・教養」と「思考力・判断力」を評価します。一般入試では、入学後の教養教育・専門教育に対応できる知識と思考力を重視し、理工学部として俯瞰的視野をもつ人物を求めため、学科全体で募集を行います。理科系・文科系に渡る幅広い知識と理数系に対する深い思考力をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <理工学経験重視型> 個別試験で「関心・意欲・態度」と「知識・教養」を重点的に評価し、「表現力」と「主体性・創造性・協働性」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。本選抜においては、工業に関する学科を卒業見込とする者を対象とし、各専門分野への強い関心と必要な基礎学力をもつとともに、多様で創造性のある実習経験等が豊富な学生の受入を目的としています。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・創造性重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」と「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」と「主体性・創造性・協働性」を重点的に評価し、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。高等学校等段階における多様な経験をもとに柔軟に対応できる力を重視するとともに、各専門分野への強い関心を表現できる人を総合的に選抜します。</p>

(理工学部：理工学科 社会基盤デザインコース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 建設技術の体系とこれを支える基礎科学を習得したうえで、いくつかの専門分野では実務レベルの初歩的課題・問題を処理・解決できる知識と応用力を有する。</p> <p>2. 汎用的技能 技術者として論理的に討議・説明できる表現力と語学力を有し、かつ、要求された作業を制約条件のもとで計画的・効率的に推進する能力を有する。</p> <p>3. 態度・志向性 技術者として、責任をもって仕事を遂行できるだけの社会的使命と倫理を自覚し、知識・技術の自主的・継続的な学習能力を有する。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 自らの専門分野の実務レベルの初歩的課題・問題の学習経験を有し、かつ、技術の歴史と現状を認識したうえで、社会・自然の変化に対応しながら地域や国際社会に貢献するため、諸問題を解決するための地球的視点を有する。</p>	<p>社会基盤デザインコースでは、数学・物理・地球科学の理学と建設・建築・都市・環境・防災に関する幅広い理論と技術に関する知識を有し、問題解決能力、計画・企画力および実行力を身につけ、社会に対する強い責任感や倫理観と高度な説明能力を具備する建設技術者を育成するために、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 「学科共通科目」や他コース科目の履修により、自発的な学習意欲をもって理工学の基礎知識を修得させ、事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の向上をめざす。</p> <p>3. 建設工学の専門基礎科目（構造力学、土質力学、水理学、計画学、材料学、環境学、測量学）について、基本的理論と基本的な演習課題を解ける知識を修得させる。</p> <p>4. 建設工学の専門応用科目（構造工学、地盤工学、鉄筋コンクリート工学、建築学、水工学、環境工学、生態学、都市地域計画学）について、基礎理論及び応用課題の演習を通じて実務に応用可能な知識を修得させる。</p> <p>5. 建造物設計・維持管理の分野もしくは環境・都市・地域の保安全管理の分野について、実験や実習を通じて実務問題の理解と課題演習が解ける知識と応用力を修得させるとともに、建設業務の計画と実施・マネジメントに関わる実務についての知識を修得させる。</p> <p>6. 社会基盤を構築する各種施設・構造物の設計・施工・維持や、人間社会が環境に及ぼす影響の評価とその緩和に関する基礎的及び実践的なテーマ設定のもとに、課題演習・調査・実験を遂行し、対象とする現象への理解を深めさせるとともに、問題解決能力ならびに創造性を高めさせる。さらに、卒業論文の作成と発表会を通じて、論理的表現能力と情報発信能力を高めさせる。</p>	<p>自ら課題を探究し、未知の問題に対して俯瞰的視野から総合的な判断を下すことができる能力を兼ね備え、科学技術のイノベーションに柔軟に対応しながらグローバルに活躍できる理工系人材を養成します。そのため、理工学部理工学科では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人 主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」における内容の理解と科学的思考力 国語、英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力 そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、倫理、政治・経済、現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程）（後期日程） 大学入試センター試験と個別試験で「知識・教養」と「思考力・判断力」を評価します。一般入試では、入学後の教養教育・専門教育に対応できる知識と思考力を重視し、理工学部として俯瞰的視野をもつ人物を求めため、学科全体で募集を行います。理科系・文科系に渡る幅広い知識と理数系に対する深い思考力をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <理工学経験重視型> 個別試験で「関心・意欲・態度」と「知識・教養」を重点的に評価し、「表現力」と「主体性・創造性・協働性」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。本選抜においては、工業に関する学科を卒業見込とする者を対象とし、各専門分野への強い関心と必要な基礎学力をもつとともに、多様で創造性のある実習経験等が豊富な学生の受入を目的としています。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・創造性重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」と「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」と「主体性・創造性・協働性」を重点的に評価し、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。高等学校等段階における多様な経験をもとに柔軟に対応できる力を重視するとともに、各専門分野への強い関心を表現できる人を総合的に選抜します。</p>

(理工学部：理工学科 社会基盤デザインコース)

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解 建設技術の体系とこれを支える基礎科学を習得したうえで、いくつかの専門分野では実務レベルの初歩的課題・問題を処理・解決できる知識と応用力を有する。</p>	<p>【学修内容】 「基礎数学」、「基礎物理学」などの教養教育科目や「構造力学」をはじめとする専門基礎科目・専門応用科目における建設技術の理論に関する講義と課題演習により、専門的知識を集中的に身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目、専門教育科目の講義および課題演習を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人</p>
<p>2. 汎用的技能 技術者として論理的に討議・説明できる表現力と語学力を有し、かつ、要求された作業を制約条件のもとで計画的・効率的に推進する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目「SIH 道場」や専門教育科目「STEM 演習」、「プロジェクト演習」等の少人数グループワークを通じて、自ら課題を発見・解決し、その成果について論理的に説明、討議できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 少人数グループでの演習・実習・実験、得られた成果のプレゼンテーションと討議を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 得られた成果のプレゼンテーションを複数の教員により定量的に評価する。</p>	<p>主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p>
<p>3. 態度・志向性 技術者として、責任をもって仕事を遂行できるだけの社会的使命と倫理を自覚し、知識・技術の自主的・継続的な学習能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目「技術者・科学者の倫理」、専門教育科目「キャリアプラン演習」等の科目において、技術者としての使命・責任感と倫理観を養うとともに、建設・建築技術の現状を理解し、諸問題の解決に向けた能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目および専門教育科目の講義、グループ討議および課題演習を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験、レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 自らの専門分野の実務レベルの初歩的課題・問題の学習経験を有し、かつ、技術の歴史と現状を認識したうえで、社会・自然の変化に対応しながら地域や国際社会に貢献するため、諸問題を解決するための地球的視点を有する。</p>	<p>【学修内容】 専門教育科目「社会基盤実験実習」、「社会基盤設計演習」、等の科目において、専門分野の実務レベルの初歩的技術を学修させる。専門教育科目「卒業研究」において、問題解決能力ならびに創造性を高め、教養教育科目グローバル化教育科目等により地球的視点を持つ能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 少人数グループでの演習・実習・実験により学修させる。指導教員の卒業研究および論文作成の指導により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 レポート等により到達度を客観的に評価する。卒業研究は審査によって評価する。</p>	

(理工学部：理工学科 機械科学コース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1)数学・自然科学・機械工学の確かな知識に基づき、複数の理学と機械工学専門分野の知識を組み合わせて問題を解決できる。 (2)産業への応用のみならず、自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。 (2)自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。 (2)自ら考え、行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 (1)地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。 (2)世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。</p>	<p>機械科学コースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、機械分野を中心としたイノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。</p> <p>2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を分に理解させる教育を行う。</p> <p>3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、力学を中心とした専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。</p> <p>4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。</p>	<p>自ら課題を探究し、未知の問題に対して俯瞰的視野から総合的な判断を下すことができる能力を兼ね備え、科学技術のイノベーションに柔軟に対応しながらグローバルに活躍できる理工系人材を養成します。そのため、理工学部理工学科では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人 主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」における内容の理解と科学的思考力 国語、英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力 そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、倫理、政治・経済、現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程）（後期日程） 大学入試センター試験と個別試験で「知識・教養」と「思考力・判断力」を評価します。一般入試では、入学後の教養教育・専門教育に対応できる知識と思考力を重視し、理工学部として俯瞰的視野をもつ人物を求めため、学科全体で募集を行います。理科系・文科系に渡る幅広い知識と理数系に対する深い思考力をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <理工学経験重視型> 個別試験で「関心・意欲・態度」と「知識・教養」を重点的に評価し、「表現力」と「主体性・創造性・協働性」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。本選抜においては、工業に関する学科を卒業見込とする者を対象とし、各専門分野への強い関心と必要な基礎学力をもつとともに、多様で創造性のある実習経験等が豊富な学生の受入を目的としています。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・創造性重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」と「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」と「主体性・創造性・協働性」を重点的に評価し、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。高等学校等段階における多様な経験をもとに柔軟に対応できる力を重視するとともに、各専門分野への強い関心を表現できる人を総合的に選抜します。</p>

(理工学部：理工学科 機械科学コース)

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1)数学・自然科学・機械工学の確かな知識に基づき、複数の理学と機械工学専門分野の知識を組み合わせて問題を解決できる。</p> <p>(2)産業への応用のみならず、自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育科目に含まれる基礎基盤教育科目群や専門教育科目に含まれる数学系科目と物理学系科目を通じて、基礎となる数学や物理学およびその自然科学の学識を修得させ、これによって、理工学が対象とする現象や事象の解明や探究を可能にする基盤を身につけさせる。さらに、専門教育科目に含まれるアナリシス系機械工学専門科目を通じて、機械工学が対象とする基礎的または特徴的な現象や事象について学修させ、基盤として身につけた数学や物理学およびその自然科学の学識を活用して理解する経験を積ませる。これによって、その現象や事象を解明もしくは探究する知識や技術を体得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>教養教育科目に含まれる基礎基盤教育科目群、ならびに、専門教育科目に含まれる数学系科目と物理学系科目および機械工学系科目においては、講義、実験・実習・演習等による教育と指導を実施し、アクティブラーニングを適宜効果的に取り入れる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人</p> <p>表 現 力</p> <p>自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>主体性・創造性・協働性</p> <p>多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1)情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。</p> <p>(2)自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育科目に含まれる汎用的技能教育科目群、および、専門教育科目に含まれる数学系科目と物理学系科目や物理学系の実験と機械工学系の実験や実習を通じて、対象とする現象や事象を適切な方法により定量化した情報として捉えて収集し、収集した情報を適正に処理して得られた結果から論理的な思考のもとに合理的な結論を導出する能力を醸成させる。さらに、専門教育科目に含まれるシンセシス系機械工学専門科目を通じて、機械工学が対象とする応用的または実際の現象や事象について学修させ、数学や物理学およびその自然科学ならびにアナリシス系機械工学の学識を総合して理解する経験を積ませる。これによって、その現象や事象に対応し、目的を達成もしくは問題を解決する知識や技術を体得させる。また、教養教育科目に含まれる一般教養教育科目群、グローバル化教育科目群、および、外国語教育科目群を通じて、異なる文化背景を有する他者と議論できる素地や世界的な視野を養成させるとともに、専門教育科目に含まれる卒業研究を通じて、自らが創造した新規的な取組みについて他者に正しく伝える能力や技術を身につけさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>教養教育科目に含まれる一般教養教育科目群、グローバル化教育科目群、汎用的技能教育科目群、および、外国語教育科目群、ならびに、専門教育科目に含まれる数学系科目、物理学系科目、機械工学系科目、および、技術英語系科目においては、講義、実験・実習・演習等による教育と指導を実施し、アクティブラーニングを適宜効果的に取り入れる。また、専門教育科目に含まれる卒業研究においては、個別指導による少人数教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし、専門教育科目に含まれる卒業研究については、卒業論文および審査会における発表を厳正に審査する。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。</p> <p>(2)自ら考え、行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育科目に含まれるイノベーション教育科目群を通じて、新しい取組みを創造し実行する際に必要となる理論と知識や技術を身につけさせる。また、教養教育科目に含まれる一般教養教育科目群を通じて、技術者または科学者としての責任や道義に加え、社会人としての教養や権利と義務を学修させることによって、社会を構成する一員としての自覚を涵養させる。さらに、専門教育科目に含まれる卒業研究を通じて、研究室という社会を構成する一員として活動させ、それによって、技術者または科学者としての責任や道義、および、組織や社会における権利や義務を実践的に体得させるとともに、自らの思考と行動により創造した新規な取組みを完遂する経験をさせ、それによって独自の取組みを立案して遂行する能力を身につけさせる。</p>	

	<p>【学修方法】 教養教育科目に含まれる一般教養教育科目群とイノベーション教育科目群においては、講義等による教育と指導を実施し、アクティブラーニングを適宜効果的に取り入れる。また、専門教育科目に含まれる卒業研究においては、個別指導による少人数教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし、専門教育科目に含まれる卒業研究については、卒業論文および審査会における発表を厳正に審査する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>(1)地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。</p> <p>(2)世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目に含まれる地域科学教育科目群、グローバル化教育科目群、および、外国語教育科目群、さらに、専門教育科目に含まれる技術英語系科目と卒業研究を通じて、地域、日本、世界における課題を認識し、研究室、コース、大学の有するシーズを活用して課題を解決し、その成果を還元する経験を積ませる。これによって、地域、日本、世界の動静や動向を認知し、柔軟かつ的確な対応ができるような素地を養成させる。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目に含まれるグローバル化教育科目群、地域科学教育科目群、および、外国語教育科目群、ならびに、専門教育科目に含まれる技術英語系科目においては、講義等による教育と指導を実施し、アクティブラーニングを適宜効果的に取り入れる。また、専門教育科目に含まれる卒業研究においては、個別指導による少人数教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし、専門教育科目に含まれる卒業研究については、卒業論文および審査会における発表を厳正に審査する。</p>	

(理工学部：理工学科 応用化学システムコース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1)数学および自然科学の確かな知識に基づき、複数の理学と工学専門分野を組み合わせ問題解決できる。 (2)自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。 (2)自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。 (2)化学者あるいは化学技術者として自ら考え行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 (1)化学者あるいは化学技術者として地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。 (2)化学者あるいは化学技術者として世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。</p>	<p>応用化学システムコースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。</p> <p>2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。</p> <p>3. 化学者あるいは化学技術者として自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。</p> <p>4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる化学者あるいは化学技術者を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。</p>	<p>自ら課題を探究し、未知の問題に対して俯瞰的視野から総合的な判断を下すことができる能力を兼ね備え、科学技術のイノベーションに柔軟に対応しながらグローバルに活躍できる理工系人材を養成します。そのため、理工学部理工学科では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人 主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」における内容の理解と科学的思考力 国語、英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力 そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、倫理、政治・経済、現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心</p> <p>●入学選抜の基本方針 一般入試（前期日程）（後期日程） 大学入試センター試験と個別試験で「知識・教養」と「思考力・判断力」を評価します。一般入試では、入学後の教養教育・専門教育に対応できる知識と思考力を重視し、理工学部として俯瞰的視野をもつ人物を求めため、学科全体で募集を行います。理科系・文科系に渡る幅広い知識と理数系に対する深い思考力をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <理工学経験重視型> 個別試験で「関心・意欲・態度」と「知識・教養」を重点的に評価し、「表現力」と「主体性・創造性・協働性」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。本選抜においては、工業に関する学科を卒業見込とする者を対象とし、各専門分野への強い関心と必要な基礎学力をもつとともに、多様で創造性のある実習経験等が豊富な学生の受入を目的としています。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・創造性重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」と「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」と「主体性・創造性・協働性」を重点的に評価し、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。高等学校等段階における多様な経験をもとに柔軟に対応できる力を重視するとともに、各専門分野への強い関心を表現できる人を総合的に選抜します。</p>

(理工学部：理工学科 応用化学システムコース)

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1)数学および自然科学の確かな知識に基づき、複数の理学と工学専門分野を組み合わせ問題解決できる。</p> <p>(2)自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目および専門教育学科共通科目から、数学や物理学に関する科目、「STEM 概論」を履修させ、化学の周辺分野について学ばせる。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における、講義、演習。専門教育学科共通科目における、講義及び演習・実験などの指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義、演習は試験などによって到達度を客観的に評価する。実験ではレポート作成を行い、担当教員が評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人</p> <p>表 現 力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1)情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。</p> <p>(2)自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目から、汎用的技能教育科目群、外国語教育科目群、および一般教養教育科目群の授業科目を履修させる。これにより、情報収集・処理能力や、幅広い一般教養を身につけさせる。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における講義および演習。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験などによって到達度を客観的に評価する。</p>	<p>主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p>
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。</p> <p>(2)化学者あるいは化学技術者として自ら考え行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。</p>	<p>【学修内容】 一般教養教育科目群から「技術者・科学者の倫理」を、専門教育コース専門科目から「安全工学」を履修させる。またコース専門科目から「基礎化学実験」、「応用化学コース実験1, 2」、「卒業研究」を履修させる。これにより、科学者・技術者に必要な倫理や安全性の理解、そして独自のアイデアで研究を進める能力を身につけさせる。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における講義や演習。コース専門科目における講義、演習、実験、卒業研究。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義や演習は試験などにより評価する。実験や卒業研究では、レポートや卒業論文を教員が審査する。また学生によるプレゼンテーションを行い、指導教員らが審査、評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>(1)化学者あるいは化学技術者として地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。</p> <p>(2)化学者あるいは化学技術者として世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。</p>	<p>【学修内容】 専門教育コース専門科目から、化学や化学工学に関する科目を履修させる。これにより、化学者あるいは化学技術者として必要な専門知識を身につけさせる。</p> <p>【学修方法】 コース専門科目における講義や演習。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験などによって到達度を客観的に評価する。</p>	

(理工学部：理工学科 電気電子システムコース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1)課題を解決するために、数学、自然科学、及び電気電子工学に関する確かな知識と技術を活かすことができる能力を有する。 (2)電気電子工学の専門分野（物性デバイス、電気エネルギー、電気電子システム、知能電子回路）の基礎知識と応用力を有する。</p> <p>2. 汎用的技能 地域社会・国際社会で活躍するための、基礎的・実践的コミュニケーション能力と自ら主体的に情報を収集・処理・活用できる能力を有する。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)豊かな教養、高い倫理観と強い責任感を有する。 (2)課題解決のために自ら考え、行動することができ、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる能力を有する。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 (1)世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応でき、専門的課題についての自律的応用力、及び創造的思考力を有する、 (2)デザイン能力、及びプロジェクト型研究遂行能力を有する。</p>	<p>電気電子システムコースでは、豊かな教養を持ち、高い倫理観と強い責任感を有するとともに、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人間性と幅広い教養を身につけ主体的に学習にする態度を養う教育を行う。</p> <p>2. 課題や事象を論理的・科学的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、電気電子工学に関する基礎知識を十分に理解させる教育を行う。</p> <p>3. 自ら課題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、電気電子工学に関する幅広い視野とその応用力、問題解決力及び表現力を養う教育を行う。</p> <p>4. 電気電子工学に関連した知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力、創造的思考力、デザイン能力及びプロジェクト型研究遂行能力を養う教育を行う。</p>	<p>自ら課題を探究し、未知の問題に対して俯瞰的視野から総合的な判断を下すことができる能力を兼ね備え、科学技術のイノベーションに柔軟に対応しながらグローバルに活躍できる理工系人材を養成します。そのため、理工学部理工学科では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人 主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」における内容の理解と科学的思考力 国語、英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力 そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、倫理、政治・経済、現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程）（後期日程） 大学入試センター試験と個別試験で「知識・教養」と「思考力・判断力」を評価します。一般入試では、入学後の教養教育・専門教育に対応できる知識と思考力を重視し、理工学部として俯瞰的視野をもつ人物を求めため、学科全体で募集を行います。理科系・文科系に渡る幅広い知識と理数系に対する深い思考力をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <理工学経験重視型> 個別試験で「関心・意欲・態度」と「知識・教養」を重点的に評価し、「表現力」と「主体性・創造性・協働性」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。本選抜においては、工業に関する学科を卒業見込とする者を対象とし、各専門分野への強い関心と必要な基礎学力をもつとともに、多様で創造性のある実習経験等が豊富な学生の受入を目的としています。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・創造性重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」と「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」と「主体性・創造性・協働性」を重点的に評価し、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。高等学校等段階における多様な経験をもとに柔軟に対応できる力を重視するとともに、各専門分野への強い関心を表現できる人を総合的に選抜します。</p>

(理工学部：理工学科 電気電子システムコース)

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1)課題を解決するために、数学、自然科学、及び電気電子工学に関する確かな知識と技術を活かすことができる能力を有する。</p> <p>(2)電気電子工学の専門分野（物性デバイス、電気エネルギー、電気電子システム、知能電子回路）の基礎知識と応用力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>(1) 代数学と積分学を中心とする数学ならびに力学を中心とする自然科学に関する知識を身につけるための学修を実施する。また、電気電子系分野での基本知識などの数理法則や物理原理の理解に必要な専門基礎学力を養う学修を実施する。</p> <p>(2) コース専門科目において、デバイスや集積システムの要素技術、電力エネルギーやその制御に関する要素技術、信号処理・制御に関するシステムの要素技術、電子回路の設計・解析や知能的な回路網に関連した要素技術の4分野に関する基礎知識の修得と実験演習を通して応用力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験、レポート等によって到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人</p> <p>表 現 力</p> <p>自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>主体性・創造性・協働性</p> <p>多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>地域社会・国際社会で活躍するための、基礎的・実践的コミュニケーション能力と自ら主体的に情報を収集・処理・活用できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実験、実習科目、技術英語科目などを通し、論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーションの基本能力、国際的に通用する技術英語能力及び情報機器を駆使し情報交換・情報収集を行う能力を養う学修を行う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験、口頭試問、レポート等によって到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)豊かな教養、高い倫理観と強い責任感を有する。</p> <p>(2)課題解決のために自ら考え、行動することができ、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>(1) 教養教育科目において人文・社会・生命科学等に関連した豊かな教養を学ぶとともに、社会や環境に対する責任を技術者として強く自覚するための使命感・倫理観を養う学修を実施する。</p> <p>(2) 電気電子工学に関する広範な基礎学力と高度な専門知識を応用して、与えられた課題を解決し、その結果を明確に表現する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>教養教育科目における幅広い分野の教員による指導。講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導。個別指導による卒業研究実施・卒業論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験、口頭試問、レポート等によって到達度を客観的に評価する。卒業研究は審査によって評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>(1)世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応でき、専門的課題についての自律的応用力、及び創造的思考力を有する、</p> <p>(2)デザイン能力、及びプロジェクト型研究遂行能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>(1) 実験・実習・演習科目及び「卒業研究」などを通して、自分で新たな知識や適切な情報を獲得しそれを活かし、創造性・独創性豊かな研究開発を行う能力を養うための学修を実施する。</p> <p>(2) 「電気エンジニアリングデザイン演習」及び「卒業研究」などを通して正解のない問題に積極的に取り組み解決する能力及びチームワーク力やリーダーシップ力などのプロジェクト型研究遂行能力を身につけるための学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導。個別指導による卒業研究実施・卒業論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験、口頭試問、レポート等によって到達度を客観的に評価する。卒業研究は審査によって評価する。</p>	

(理工学部：理工学科 情報光システムコース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1)数学, 自然科学および情報工学, 知能工学, 光工学の専門的知識に基づき, 複数の理学と情報工学, 知能工学, 光工学分野を組み合わせ問題解決できる。 (2)複数の理学と情報工学, 知能工学, 光工学の専門的知識・技術を活用して情報・光システム全体を俯瞰できる。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)系統的な専門教育課程のもとで情報, 知能, 光の科学技術に関わる課題を創造的に見出し, 与えられた制約のもとで論理的に問題解決できる。 (2)日本語による論理的な記述力, 口頭発表力, 討議などのコミュニケーション能力及び国際的文化を理解し, 国際的に通用するコミュニケーションができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)科学技術に携わるものとして, 幅広い視野で社会的責任と倫理観を絶えず意識しながら個々の使命感を持って自律的に行動できる。 (2)常に目的意識を持って継続的, 自主的に学習でき, 独自の工夫やアイデアにより新しいものを創出できる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 (1)現状の情報・光システムにおける社会的課題を分析し, 複数の専門的知識・技術を統合して解決し, その成果を社会に還元できる。 (2)情報技術, 光技術の関連分野のみならず, システム設計の能力を活かせる各分野で柔軟かつ幅広く活躍できる能力をもち, 国内外の社会に貢献できる。</p>	<p>情報光システムコースでは, 情報工学, 知能工学及び光工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し, イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また, 地域社会に知識と技術を還元できる人材, 及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し, グローバルに活躍できる人材の育成をめざして, 以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため, 豊かな人格と高い倫理観を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。</p> <p>2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため, 理学的素養の上に情報工学・知能工学・光工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。</p> <p>3. 自ら問題を解決し, その方法と過程を表現できる人材を育成するため, 情報工学・知能工学・光工学の専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。</p> <p>4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため, 情報工学・知能工学・光工学の諸問題に, 科学技術を広く俯瞰して柔軟に対応できる自律的応用力と創造力, さらにチーム内での自分の役割を理解し協調的に課題を解決できる能力を養う教育を行う。</p>	<p>自ら課題を探究し, 未知の問題に対して俯瞰的視野から総合的な判断を下すことができる能力を兼ね備え, 科学技術のイノベーションに柔軟に対応しながらグローバルに活躍できる理工系人材を養成します。そのため, 理工学部理工学科では, 次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり, 明確な目標をもっている人 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために, 高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに, 広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人 主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに, 主体的に創造性豊かな発想ができる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」における内容の理解と数学的思考力 理 科—「物理基礎・物理」, 「化学基礎・化学」における内容の理解と科学的思考力 国語, 英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力, 読解力, 思考力 そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な, 地理歴史, 倫理, 政治・経済, 現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試 (前期日程) (後期日程) 大学入試センター試験と個別試験で「知識・教養」と「思考力・判断力」を評価します。一般入試では, 入学後の教養教育・専門教育に対応できる知識と思考力を重視し, 理工学部として俯瞰的視野をもつ人物を求めため, 学科全体で募集を行います。理科系・文科系に渡る幅広い知識と理数系に対する深い思考力をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ (大学入試センター試験を課さない) <理工学経験重視型> 個別試験で「関心・意欲・態度」と「知識・教養」を重点的に評価し, 「表現力」と「主体性・創造性・協働性」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため, 志望コース毎に募集を行います。本選抜においては, 工業に関する学科を卒業見込とする者を対象とし, 各専門分野への強い関心と必要な基礎学力をもつとともに, 多様で創造性のある実習経験等が豊富な学生の受入を目的としています。</p> <p>推薦入試Ⅱ (大学入試センター試験を課さない) <主体性・創造性重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」と「知識・教養」を評価します。個別試験では, 2段階にわたって「関心・意欲・態度」と「主体性・創造性・協働性」を重点的に評価し, 「表現力」, 「知識・教養」, 「思考力・判断力」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため, 志望コース毎に募集を行います。高等学校等段階における多様な経験をもとに柔軟に対応できる力を重視するとともに, 各専門分野への強い関心を表現できる人を総合的に選抜します。</p>

(理工学部：理工学科 情報光システムコース)

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1)数学, 自然科学および情報工学, 知能工学, 光工学の専門的知識に基づき, 複数の理学と情報工学, 知能工学, 光工学分野を組み合わせて問題を解決できる。</p> <p>(2)複数の理学と情報工学, 知能工学, 光工学の専門的知識・技術を活用して情報・光システム全体を俯瞰できる。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目における基礎基盤教育科目群, 専門教育科目における数学, 自然科学および複数の理学分野を幅広く学ばせるとともに, 情報工学, 知能工学, 光工学の専門的知識を深く身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における講義等, 専門教育科目における講義及び演習・実習・実験等による, アクティブラーニングを取り入れた教育。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり, 明確な目標をもっている人</p> <p>表 現 力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために, 高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに, 広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに, 主体的に創造性豊かな発想ができる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1)系統的な専門教育課程のもとで情報, 知能, 光の科学技術に関わる課題を創造的に見出し, 与えられた制約のもとで論理的に問題解決できる。</p> <p>(2)日本語による論理的な記述力, 口頭発表力, 討議などのコミュニケーション能力及び国際的文化を理解し, 国際的に通用するコミュニケーションができる。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目における外国語教育科目群, 専門教育科目における技術英語系科目の履修を通じて, 国際的に通用するコミュニケーション能力を身につける学修を実施する。</p> <p>また, 系統的な専門教育科目の履修を通じて, 論理的な記述力, 口頭発表力, コミュニケーション力を身につけ, 与えられた制約のもとで論理的に問題解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における講義等, 専門教育科目における講義及び演習・実習・実験等による, アクティブラーニングを取り入れた教育。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験, レポート, 実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。卒業論文は審査によって評価する。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)科学技術に携わるものとして, 幅広い視野で社会的責任と倫理観を絶えず意識しながら個々の使命感を持って自律的に行動できる。</p> <p>(2)常に目的意識を持って継続的, 自主的に学習でき, 独自の工夫やアイデアにより新しいものを創出できる。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目における「技術者・科学者の倫理」, 専門教育科目におけるチーム作業を伴う教育を通じて, 豊かな人格と高い倫理観を身につけ自発的に学習する態度を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における講義等, 専門教育科目における講義及び演習・実習・実験等による, アクティブラーニングを取り入れた教育。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験, レポート, 実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。卒業論文は審査によって評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>(1)現状の情報・光システムにおける社会的課題を分析し, 複数の専門的知識・技術を統合して解決し, その成果を社会に還元できる。</p> <p>(2)情報技術, 光技術の関連分野のみならず, システム設計の能力を活かせる各分野で柔軟かつ幅広く活躍できる能力をもち, 国内外の社会に貢献できる。</p>	<p>【学修内容】 チーム作業を伴う科目, 創成型科目の履修を通じて, 科学技術を広く俯瞰して柔軟に対応する応用力と創造力, チーム内での自分の役割を理解し協調的に課題を解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等において, チームで問題解決にあたる教育。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験, レポート, 実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。卒業論文は審査によって評価する。</p>	

(理工学部：理工学科 応用理数コース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 (1)数学および自然科学の確かな知識に基づき、複数の理学と工学専門分野を組み合わせ問題解決できる。 (2)自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。</p> <p>2. 汎用的技能 (1)情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。 (2)自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。</p> <p>3. 態度・志向性 (1)社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。 (2)自ら考え、行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 (1)地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。 (2)世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。</p>	<p>応用理数コースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。</p> <p>2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。</p> <p>3. 数学、情報科学、物理科学、化学、地球科学、生物科学の諸問題を自ら解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。</p> <p>4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。</p>	<p>自ら課題を探究し、未知の問題に対して俯瞰的視野から総合的な判断を下すことができる能力を兼ね備え、科学技術のイノベーションに柔軟に対応しながらグローバルに活躍できる理工系人材を養成します。そのため、理工学部理工学科では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人 主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」における内容の理解と科学的思考力 国語、英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力 そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、倫理、政治・経済、現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程）（後期日程） 大学入試センター試験と個別試験で「知識・教養」と「思考力・判断力」を評価します。一般入試では、入学後の教養教育・専門教育に対応できる知識と思考力を重視し、理工学部として俯瞰的視野をもつ人物を求めため、学科全体で募集を行います。理科系・文科系に渡る幅広い知識と理数系に対する深い思考力をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <理工学経験重視型> 個別試験で「関心・意欲・態度」と「知識・教養」を重点的に評価し、「表現力」と「主体性・創造性・協働性」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。本選抜においては、工業に関する学科を卒業見込とする者を対象とし、各専門分野への強い関心と必要な基礎学力をもつとともに、多様で創造性のある実習経験等が豊富な学生の受入を目的としています。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・創造性重視型> 大学入試センター試験で「思考力・判断力」と「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」と「主体性・創造性・協働性」を重点的に評価し、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」を合わせて総合的に評価します。高い主体性と専門性を重視するため、志望コース毎に募集を行います。高等学校等段階における多様な経験をもとに柔軟に対応できる力を重視するとともに、各専門分野への強い関心を表現できる人を総合的に選抜します。</p>

(理工学部：理工学科 応用理数コース)

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1)数学および自然科学の確かな知識に基づき、複数の理学と工学専門分野を組み合わせ問題解決できる。</p> <p>(2)自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース専門科目及び他コース専門科目の履修により、理工学分野の多様な領域に触れる学修を実施する。さらに、系専門科目の履修と教員による指導を通じて、専門的な分野に深く触れる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実験などの専門教育科目における指導。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>課題レポート・試験等によって到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人</p> <p>表 現 力</p> <p>自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>知識・教養</p> <p>本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力</p> <p>今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>主体性・創造性・協働性</p> <p>多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p>
<p>2. 汎用的技能</p> <p>(1)情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。</p> <p>(2)自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育科目において、人文科学や社会科学などの一般教養と情報科学などの汎用的技能を身につける学修を実施する。コース専門科目においては、演習や実験により高いスキルを身につけるための学修を実施する。さらに、技術英語などにおいて、専門英語を活用するための学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>教養教育科目における幅広い分野の教員による指導。講義及び演習・実験などの専門教育科目における指導。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>課題レポート・試験等によって到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。</p> <p>(2)自ら考え、行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育科目において、一般教養及び職業観や倫理観を身につけるための学修を実施する。さらに専門科目において、演習や実験科目における教員による指導を通じて、主体的に研究活動を行うための学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>教養教育科目における幅広い分野の教員による指導。講義及び演習・実験などの専門教育科目における指導。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>課題レポート・試験等によって到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>(1)地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。</p> <p>(2)世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>教養教育科目において、社会科学や地域科学などの諸分野の知見に幅広く触れる学修を実施する。さらに、専門教育科目において、深い専門知識に触れる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>教養教育科目における幅広い分野の教員による指導。講義及び演習・実験などの専門教育科目における指導。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>課題レポート・試験等によって到達度を客観的に評価する。</p>	

学士課程（生物資源産業学部）

大学の目的（学則 第1条）	学部（学科）の教育研究上の目的（学部規則等から抜粋）
徳島大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の精神に則り、有為な人材を育成し、学術の研究を推進し、社会貢献を果たし、もって人類の福祉と文化の向上に貢献することを目的とする。	本学部は、人類が抱える生物資源と生命の諸問題を理解し、国際的視野に立って解決できる能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（生物資源産業学部：生物資源産業学科） 学士（生物資源産業学）

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・理解 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有する。 汎用的技能 生物資源の生産・利用に関わる生命現象を総合的に理解し、その研究手法を体系的に修得し、応用できる。 態度・志向性 生物資源産業に関する商業的基盤を理解し、グローバルな視点から地域社会の課題を考える事ができる。 統合的な学習経験と創造的思考力 生命工学、食料加工、生物資源生産に関する専門知識を有し、生物資源を利用した新たな産業の創出に貢献できる。 	<p>生物資源産業学部では、教育目標を達成するため、以下の特色あるカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1次製品の生産から加工、製品開発・販売、機能食品・医薬品の開発に関する先端技術を理解し、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため、アグリサイエンス、フードサイエンス、ヘルスサイエンスに関する専門教育と産業の創出に必要な経済・経営に関する専門教育を行う。 生物資源の生産、加工・応用、製品化を総合的に理解するために必要な基礎教育を重視し、1・2年次に行われる学科共通科目（講義9科目18単位）と実習・演習科目（3科目4単位）を必修化する。また、推薦入学による農業系高校出身学生の基礎教育では、高大接続科目や自然科学入門を1年次に履修させることにより、基礎学力の修得を徹底する。 生物資源を活用した産業の創出に必要な経済・経営に関する専門教育を重視し、経済・経営関連科目として「経済学基礎」、「経営学入門」、「地域資源経済学」、「フードシステム論」、「知的財産の基礎と活用」、「アグリビジネス起業論」、「食品マーケティング論」（7科目14単位）、実習演習（「起業体験実習」、「商品開発プロジェクト演習」（2単位）の必修科目と選択科目である「国際農業論」、「ブランド戦略論」（2科目4単位）を開講するとともに、生物資源の利用、産業化に関する科目（「生物資源産業学概論」、「生物資源産業学実習」、「食品・生物資源関連法規」、「生物資源産業学特別講義」）を必修化し、生物資源による新たな産業の創出に必要な基礎知識を涵養する。 持続可能な生物資源の生産と応用には、生物生産現場の体験が重要であるとの認識から、生物生産現場の特性が体感できる実習（「生物生産フィールド実習」）を1年次に必修科目として実施する。 農学、工学、医学、栄養学及び薬学分野が融合し、かつ安全性や環境にも配慮した先端技術による生物資源の生産、応用に関する教育を重視する。 生物資源の生産管理や分析には、情報処理の知識が不可欠であるため、教養教育科目である基礎数学（「統計学」、「微分積分学」）と学科共通科目である「生物情報処理学」、「コンピュータプログラミング演習」を必修科目とし、情報処理能力を修得する教育を実施する。 「キャリアパス」、「起業体験実習」、「商品開発プロジェクト演習」、「生物資源産業学特別講義」、「技術者倫理」や「インターンシップ」、学外での卒業研究によって、現場での実践力を養う教育を実施する。 グローバル化を見据え、専門英語については、「生物資源産業学基礎英語」と「生物資源産業学専門英語」を必修化し、英語運用能力と国際感覚を高めるための実践的教育を実施する。 生物資源の持続的活用と安全な食品生産、創薬のため、「技術者倫理」（3年後期）を必修化するとともに、コース専門科目においても技術者倫理・生命倫理に関する内容を講義に組み込む。 	<p>生物資源産業学部では、バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産、医薬、食品としての有効利用に関連する幅広い知識、国際的に通用する専門性、バイオ産業創出に必要な起業マインドをもった人材の育成を目的としています。そのため、生物資源産業学部では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標を持っている人 探究力 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人 表現力 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人 協働性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 理 科—「化学、化学基礎」「生物、生物基礎」「物理、物理基礎」から2科目以上に渡る内容の理解と、自然環境で起こっている現象やその問題解決に必要な知識・教養。特に、入学後の学修に備えるため、化学に関する科目は実験データの解析力などを踏まえて、着実な修得をはかること。 数 学—「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」における内容の理解と応用力 地 歴・公 民—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識 英 語—国際的な専門分野を学ぶために必要な読解力と基礎的な運用能力 国 語—様々な文献の読解力と、自分が伝えたいことを表現できる基礎的な文章力 地歴・公 民—地歴・公民における基礎的内容の理解</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験ではこれらに加えて「表現力」「関心・意欲・態度」「探究力」を評価します。知識のみならず、学ぶ意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。 一般入試（後期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し、個別試験ではこれらに加えて「探究力」「表現力」を評価します。より深い知識とともに、思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。 推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <地方創生型> 個別試験で「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「探究力」「思考力・判断力」「知識・教養」を合わせて総合的に評価します。地方創生型入試は、各地域の産業界と結びつきの強い専門教育を行っている学科を対象とし、地方創生に意欲をもつ学生の受入を目的としています（地域枠あり）。大学入試センター試験は課さず、個別試験のみで選抜します。 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・表現力重視型> 3教科の大学入試センター試験でより深い「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「探究力」「思考力・判断力」を合わせて評価します。高等</p>

		学校等段階における多様な能力、関心等を重視し、それを表現できる人を総合的に選抜します。
(生物資源産業学部：生物資源産業学科 応用生命コース)		
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 生命科学・生物工学分野の基礎知識と、多様な生命現象やバイオテクノロジーに関する専門知識を修得している。</p> <p>2. 汎用的技能 多様な生物資源の特性を、高度な生物工学技術により応用し、社会に貢献できる論理的思考ができる。</p> <p>3. 態度・志向性 生物工学に携わる人材として相応しい豊かな人格、教養、倫理観、コミュニケーション力を有し、バイオテクノロジーによる地域社会、国際社会の課題解決を志向する。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 生命科学・生物工学に関する総合的な視点から、社会の諸問題の分析、解決に積極的に取り組み、生物資源を利用した新たな産業の創出に貢献できる。</p>	<p>応用生命コースでは、生物資源の医薬からエネルギーに至るバイオテクノロジーの開発応用に関する高い研究能力や専門知識を身につけ、新たな産業創出に貢献する技術者、起業家を育成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 人間と自然が共存する豊かな社会の中で、新たな生物資源の活用によって人類社会に貢献するため、教養教育科目や学科共通科目（「生物資源産業学概論」等）などの科目を通じて生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性、バイオテクノロジーについての高い倫理観を修得させる。また、持続可能な社会作りの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため、ヘルスサイエンスに加えて、フードサイエンス、アグリサイエンスに関する専門科目（「生物化学工学概論」、「食と健康概論」、「生物生産科学概論」等）および、経済・経営関連科目（「地域資源経済学」、「フードシステム論」、「アグリビジネス起業論」等）などを通じて専門基礎と産業の創出に必要なビジネスマインドを修得させる。</p> <p>3. 「タンパク質工学」、「細胞バイオ工学」、「創薬学」、「バイオマス利用学」、「医用工学」などのコース専門教育や、「バイオマス実習」、「細胞工学実習」、「発酵学実習」などのコース専門実習および卒業研究によって、生物資源を利用したバイオ医薬品、エネルギー、有用資源の開発応用、産業化に関する専門知識と技能を修得させる。</p>	<p>生物資源産業学部では、バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産、医薬、食品としての有効利用に関連する幅広い知識、国際的に通用する専門性、バイオ産業創出に必要な起業マインドをもった人材の育成を目的としています。そのため、生物資源産業学部では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標を持っている人 探究力 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人 表現力 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人 協働性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 理 科—「化学、化学基礎」「生物、生物基礎」「物理、物理基礎」から2科目以上に渡る内容の理解と、自然環境で起こっている現象やその問題解決に必要な知識・教養。特に、入学後の学修に備えるため、化学に関する科目は実験データの解析力などを踏まえて、着実な修得をはかること。 数 学—「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」における内容の理解と応用力 地歴・公民—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識 英 語—国際的な専門分野を学ぶために必要な読解力と基礎的な運用能力 国 語—様々な文献の読解力と、自分が伝えたいことを表現できる基礎的な文章力 地歴・公民—地歴・公民における基礎的内容の理解</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験ではこれらに加えて「表現力」「関心・意欲・態度」「探究力」を評価します。知識のみならず、学ぶ意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。</p> <p>一般入試（後期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し、個別試験ではこれらに加えて「探究力」「表現力」を評価します。より深い知識とともに、思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） ＜地方創生型＞ 個別試験で「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「探究力」「思考力・判断力」「知識・教養」を合わせて総合的に評価します。地方創生型入試は、各地域の産業界と結びつきの強い専門教育を行っている学科を対象とし、地方創生に意欲をもつ学生の受入を目的としています（地域枠あり）。大学入試センター試験は課さず、個別試験のみで選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） ＜主体性・表現力重視型＞ 3教科の大学入試センター試験でより深い「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「探究力」「思考力・判断力」を合わせて評価します。高等学校等段階における多様な能力、関心等を重視し、それを表現できる人を総合的に選抜します。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解 生命科学・生物工学分野の基礎知識と、多様な生命現象やバイオテクノロジーに関する専門知識を修得している。</p>	<p>【学修内容】 専門教育科目の講義を通じて、生物物理化学、有機化学、生化学、微生物学、バイオマスに関する専門知識を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 複数教員によるオムニバス形式やアクティブラーニングを取り入れた教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験・レポート・プレゼンテーション等によって到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標を持っている人</p> <p>探究力 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人</p>
<p>2. 汎用的技能 多様な生物資源の特性を、高度な生物工学技術により応用し、社会に貢献できる論理的思考ができる。</p>	<p>【学修内容】 演習や実習を通じて、生物資源を利用したバイオ医薬品、エネルギー、有用資源等の開発・応用・産業化に関する専門知識・技術を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 少人数指導形式やアクティブラーニングを取り入れた教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験・レポート・プレゼンテーション等によって到達度を客観的に評価する。</p>	<p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協働性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p>
<p>3. 態度・志向性 生物工学に携わる人材として相応しい豊かな人格、教養、倫理観、コミュニケーション力を有し、バイオテクノロジーによる地域社会、国際社会の課題解決を志向する。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目や学科共通科目を通じて、豊かな人格、教養、倫理観、コミュニケーション力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目の自由な選択による幅広い教養の修得と、複数教員によるオムニバス形式やアクティブラーニングを取り入れた教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験・レポート・プレゼンテーション等によって到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 生命科学・生物工学に関する総合的な視点から、社会の諸問題の分析、解決に積極的に取り組み、生物資源を利用した新たな産業の創出に貢献できる。</p>	<p>【学修内容】 経済・経営関連科目・インターンシップ・卒業研究を通じて、産業の創出に必要な専門知識・技術やビジネスマインドを身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 経済・経営関連科目やインターンシップにおいて、少人数指導形式やアクティブラーニングを取り入れた実践的教育を行う。また、指導教員による卒業論文の作成の指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験・レポート・プレゼンテーション等によって到達度を客観的に評価する。インターンシップは民間企業・団体及び担当教員によって総合的に評価する。卒業論文は複数の教員による審査によって評価する。</p>	

(生物資源産業学部：生物資源産業学科 食料科学コース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 生命科学，食料科学の基礎知識と，多様な食資源や食品加工，食の安全・安心，産業化に関する総合的な専門知識を修得している。</p> <p>2. 汎用的技能 多様な食資源の応用と新たな食資源の開発によって，社会に貢献できる論理的思考ができる。</p> <p>3. 態度・志向性 食品開発・生産に携わる人材として相応しい豊かな人格，教養，倫理観，コミュニケーション力を有し，食産業による地域社会，国際社会の課題解決を志向する。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 食料科学に関する総合的な視点から，社会の諸問題の分析，解決に積極的に取り組み，新たな食品産業の創出に貢献できる。</p>	<p>食料科学コースでは，安心安全な食品供給を可能にするための生物資源の加工，食品中の機能成分の役割，有害物質の作用等に関する高い研究能力や専門知識を身につけ，食品分野で新たな産業創出に貢献する技術者，起業家を育成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 人間と自然が共存する豊かな社会の中で，新たな生物資源の活用によって人類社会に貢献するため，教養教育科目や学科共通科目（「生物資源産業学概論」等）などの科目を通じて生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性，バイオテクノロジーについての高い倫理観を修得させる。また，持続可能な社会作りの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため，フードサイエンスに加えて，ヘルスサイエンス，アグリサイエンスに関する専門科目（「生物化学工学概論」，「食と健康概論」，「生物生産科学概論」等）および，経済・経営関連科目（「地域資源経済学」，「フードシステム論」，「アグリビジネス起業論」等）などを通じて専門基礎と産業の創出に必要なビジネスマインドを修得させる。</p> <p>3. 「食品衛生学」，「食品加工保蔵学」，「食品微生物学」，「遺伝子資源利用学」，「発酵醸造学」などのコース専門教育や，「食料科学実習Ⅰ，Ⅱ」，「微生物学実習」などのコース専門実習および卒業研究によって，食資源としての生物資源の重要性を理解し，栄養学の基礎，機能食品開発，産業化に関する専門知識と技能を修得させる。</p>	<p>生物資源産業学部では，バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産，医薬，食品としての有効利用に関連する幅広い知識，国際的に通用する専門性，バイオ産業創出に必要な起業マインドをもった人材の育成を目的としています。そのため，生物資源産業学部では，次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 バイオテクノロジー，生命，医療，食料，農業，環境に強い関心と学びに対する意欲があり，自分で明確な目標をもっている人 探究力 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人 表現力 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために，高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人 協働性 問題解決のために，国籍や世代，考え方にとらわれることなく，対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 理 科—「化学，化学基礎」「生物，生物基礎」「物理，物理基礎」から2科目以上に渡る内容の理解と，自然環境で起こっている現象やその問題解決に必要な知識・教養。特に，入学後の学修に備えるため，化学に関する科目は実験データの解析力などを踏まえて，着実な修得をはかること。 数 学—「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」における内容の理解と応用力 地 歴・公 民—日本を含む世界の出来事に対する関心と，諸地域の地理・歴史についての基礎知識 英 語—国際的な専門分野を学ぶために必要な読解力と基礎的な運用能力 国 語—様々な文献の読解力と，自分が伝えたいことを表現できる基礎的な文章力 地歴・公民—地歴・公民における基礎的内容の理解</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し，個別試験ではこれらに加えて「表現力」「関心・意欲・態度」「探究力」を評価します。知識のみならず，学ぶ意欲や自分で課題を発見し，主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。 一般入試（後期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し，個別試験ではこれらに加えて「探究力」「表現力」を評価します。より深い知識とともに，思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <地方創生型> 個別試験で「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し，「探究力」「思考力・判断力」「知識・教養」を合わせて総合的に評価します。地方創生型入試は，各地域の産業界と結びつきの強い専門教育を行っている学科を対象とし，地方創生に意欲をもつ学生の受入を目的としています（地域枠あり）。大学入試センター試験は課さず，個別試験のみで選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・表現力重視型> 3教科の大学入試センター試験でより深い「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では，2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し，「探究力」「思考力・判断力」を合わせて評価します。高等学校等段階における多様な能力，関心等を重視し，それを表現できる人を総合的に選抜します。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解 生命科学，食料科学の基礎知識と，多様な食資源や食品加工，食の安全・安心，産業化に関する総合的な専門知識を修得している。</p>	<p>【学修内容】 食品系（天然物化学，食品・栄養学概論，食品加工保蔵学，食品微生物学，機能食品学，発酵醸造学，食と漢方，食品アレルギー学），食安全系（食品衛生学，バイオアセスメント学），栄養系（栄養生理学，病態栄養学，ビタミン学，味覚サイエンス），生命科学系（遺伝子資源利用学，酵素化学）の科目履修，食料科学実習Ⅰ・Ⅱ，発酵学実習の履修により，食料科学に関する専門的知識を総合的に修得する学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義により専門領域の内容を理解したうえで，実習等によりその理解度をさらに深める指導を行う。アクティブラーニングを取り入れた教育を実施する。卒業研究における指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。卒業研究は，卒業論文と卒業研究発表で総合的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 バイオテクノロジー，生命，医療，食料，農業，環境に強い関心と学びに対する意欲があり，自分で明確な目標をもっている人</p> <p>探 究 力 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人</p> <p>表 現 力 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために，高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p>
<p>2. 汎用的技能 多様な食資源の応用と新たな食資源の開発によって，社会に貢献できる論理的思考ができる。</p>	<p>【学修内容】 食品加工保蔵学，食品微生物学，機能食品学，発酵醸造学，食料科学実習Ⅰ・Ⅱ，発酵学実習，生物資源産業学実習により，食資源の応用・開発に必要な論理的思考を修得する学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義により専門領域の内容を理解したうえで，実習等によりその理解度と実践力をさらに深める指導を行う。アクティブラーニングを取り入れた教育を実施する。卒業研究における指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。卒業研究は，卒業論文と卒業研究発表で総合的に評価する。</p>	<p>協 働 性 問題解決のために，国籍や世代，考え方にとらわれることなく，対等の立場で協力できる人</p>
<p>3. 態度・志向性 食品開発・生産に携わる人材として相応しい豊かな人格，教養，倫理観，コミュニケーション力を有し，食産業による地域社会，国際社会の課題解決を志向する。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目や学科共通科目を通じて，豊かな人格，教養，倫理観，コミュニケーション力を身につける学修を実施する。知的財産の基礎と活用，食品・生物資源関連法規，生物資源産業学特別講義，技術者倫理，専門英語教育科目等の履修，商品開発プロジェクト演習や学外インターンシップによる実践的教育により，食産業における課題解決の志向力を修得する学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目の自由な選択による幅広い教養の修得と，複数教員によるオムニバス形式やアクティブラーニングを取り入れた教育を行う。講義・実習演習により食品産業に携わる理念と実践力を修得させる指導を行う。学外での実地研修による指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 食料科学に関する総合的な視点から，社会の諸問題の分析，解決に積極的に取り組み，新たな食品産業の創出に貢献できる。</p>	<p>【学修内容】 食と健康概論，生物化学工学概論，生物生産科学特概論，生物情報処理学，コンピュータプログラミング演習，地域資源経済学，食品マーケティング論，アグリビジネス起業論の履修により，食品産業の起業化・産業化に対する総合的な視点を養い，分析力，課題解決力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義・実習演習により実践力と思考力を修得させる指導を行う。アクティブラーニングによる教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験・成果発表等によって到達度を客観的に評価する。</p>	

(生物資源産業学部：生物資源産業学科 生物生産システムコース)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解 生命科学・生物生産学分野の基礎知識と、生産性の高い持続的農業関連技術と生物資源保全に関する専門知識を修得している。</p> <p>2. 汎用的技能 農工連携、バイオテクノロジーを活用した一次産業によって、地域社会や国際社会に貢献できる論理的思考ができる。</p> <p>3. 態度・志向性 食料や医薬となる生物資源の生産に携わる人材として相応しい豊かな人格、教養、倫理観、コミュニケーション力を有し、六次産業化による地域社会の発展や国際社会への貢献を志向する。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 一次産業、地域経済に関する総合的な視点から、社会の諸問題の分析、解決に積極的に取り組み、生物資源を利用した新たな産業の創出に貢献できる。</p>	<p>生物生産システムコースでは、豊かな自然環境を保全しながら、一次産品の質の向上や生産量を増加させる革新的なアグリサイエンスに関する高い研究能力や専門知識を身につけ、一次産業の発展、産業創出に貢献する技術者、起業家、地域リーダーを育成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 人間と自然が共存する豊かな社会の中で、新たな生物資源の活用によって人類社会に貢献するため、教養教育科目や学科共通科目（「生物資源産業学概論」等）などの科目を通じて生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性、バイオテクノロジーについての高い倫理観を修得させる。また、持続可能な社会作りの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。</p> <p>2. 生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため、アグリサイエンスに加えて、フードサイエンス、ヘルスサイエンスに関する専門科目（「生物化学工学概論」、「食と健康概論」、「生物生産科学概論」等）および、経済・経営関連科目（「地域資源経済学」、「フードシステム論」、「アグリビジネス起業論」等）などを通じて専門基礎と産業の創出に必要なビジネスマインドを修得させる。</p> <p>3 「栽培育種工学」、「森林代謝学」、「植物環境応答生理学」、「家畜繁殖学」、「植物細胞工学」などのコース専門教育や、「生物生産システム実習Ⅰ」、「細胞工学実習」などのコース専門実習および卒業研究によって、一次産業の技術革新、新たな生物資源の利用、産業化に関する専門知識と技能を修得させる。</p>	<p>生物資源産業学部では、バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産、医薬、食品としての有効利用に関連する幅広い知識、国際的に通用する専門性、バイオ産業創出に必要な起業マインドをもった人材の育成を目的としています。そのため、生物資源産業学部では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像 関心・意欲・態度 バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標をもっている人 探究力 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人 表現力 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人 思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人 協働性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容 理 科—「化学、化学基礎」「生物、生物基礎」「物理、物理基礎」から2科目以上に渡る内容の理解と、自然環境で起こっている現象やその問題解決に必要な知識・教養。特に、入学後の学修に備えるため、化学に関する科目は実験データの解析力などを踏まえて、着実な修得をはかること。 数 学—「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」における内容の理解と応用力 地 歴・公 民—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識 英 語—国際的な専門分野を学ぶために必要な読解力と基礎的な運用能力 国 語—様々な文献の読解力と、自分が伝えたいことを表現できる基礎的な文章力 地歴・公民—地歴・公民における基礎的内容の理解</p> <p>●入学者選抜の基本方針 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験ではこれらに加えて「表現力」「関心・意欲・態度」「探究力」を評価します。知識のみならず、学ぶ意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。 一般入試（後期日程） 大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し、個別試験ではこれらに加えて「探究力」「表現力」を評価します。より深い知識とともに、思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <地方創生型> 個別試験で「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「探究力」「思考力・判断力」「知識・教養」を合わせて総合的に評価します。地方創生型入試は、各地域の産業界と結びつきの強い専門教育を行っている学科を対象とし、地方創生に意欲をもつ学生の受入を目的としています（地域枠あり）。大学入試センター試験は課さず、個別試験のみで選抜します。</p> <p>推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） <主体性・表現力重視型> 3教科の大学入試センター試験でより深い「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「探究力」「思考力・判断力」を合わせて評価します。高等学校等段階における多様な能力、関心等を重視し、それを表現できる人を総合的に選抜します。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>1. 知識・理解 生命科学・生物生産学分野の基礎知識と、生産性の高い持続的農業関連技術と生物資源保全に関する専門知識を修得している。</p>	<p>【学修内容】 生命科学及び生物生産学分野における専門入門科目において幅広く学ぶと同時に、多様な生物種を用いたそれぞれの生物資源の利用と保全についての領域に触れる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 複数の専門入門科目への参加を指導する。アクティブラーニングを取り入れた教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>関心・意欲・態度 バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標をもっている人</p> <p>探 究 力 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人</p> <p>表 現 力 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人</p>
<p>2. 汎用的技能 農工連携、バイオテクノロジーを活用した一次産業によって、地域社会や国際社会に貢献できる論理的思考ができる。</p>	<p>【学修内容】 従来の方に加え新しい生物資源の生産及び利活用について学修した内容を、地域社会や国際社会が抱える問題と適切に関連づけ、問題解決や改善を考える思考能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習/実習等の専門教育科目における指導を実施する。科目により少人数グループによる指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協 働 性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p>
<p>3. 態度・志向性 食料や医薬となる生物資源の生産に携わる人材として相応しい豊かな人格、教養、倫理観、コミュニケーション力を有し、六次産業化による地域社会の発展や国際社会への貢献を志向する。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目や学科共通科目を通じて、豊かな人格、教養、倫理観、コミュニケーション力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目の自由な選択による幅広い教養の修得と、複数教員によるオムニバス形式やアクティブラーニングを取り入れた教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。</p>	
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 一次産業、地域経済に関する総合的な視点から、社会の諸問題の分析、解決に積極的に取り組み、生物資源を利用した新たな産業の創出に貢献できる。</p>	<p>【学修内容】 生物資源の活用や保全における知識や理解を発展させ、地域や国際社会の課題解決に導くための調査、分析、考察及び表現する力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習/実習等の専門教育科目における指導を実施する。科目により少人数グループによる指導を行う。卒業論文の作成を通して指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。卒業論文は審査により評価する。</p>	